

金沢美術工芸大学

KANAZAWA COLLEGE OF ART

社会連携研究成果報告書 2016

**人に夢を。  
地域に活力を。  
ビジネスに未来を。**

**金沢美大の創造力を、  
あなたの事業に  
お役立てください。**

金沢美術工芸大学では、社会連携センターを拠点に、広く企業や研究機関・公共団体などの連携活動を推進しています。

**POLICY  
理念**

金沢美術工芸大学は社会貢献を、教育と研究に並ぶ大学の使命と位置づけ、地域連携・産学連携を通して積極的に社会貢献を行います。

1. 本学の持つ美術工芸分野の専門知識や技術、社会連携で得られた成果を広く社会に還元します。
2. 地域の産業と積極的に連携を図り、地域社会の活性化に貢献します。
3. 社会との連携活動を体験することで、より実践的に社会に寄与できる人材を育成します。

**SYSTEM  
活動体制**

テーマの規模や内容、状況に応じて、様々な研究方法・スタイルを準備しています。詳細はお問い合わせください。

**研究制度**

**共同研究**

企業や教育機関より研究者・研究経費等を受け入れ、共通の課題について対等な立場で研究を行う制度

**受託研究**

企業等から委託を受け、委託者の負担する経費で研究を行い、その成果を委託者に報告する制度

**研究体制**

**プロジェクト型（課外活動型）**

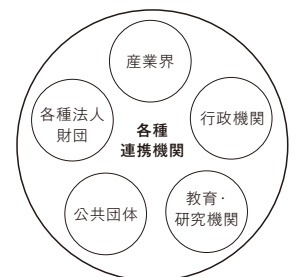
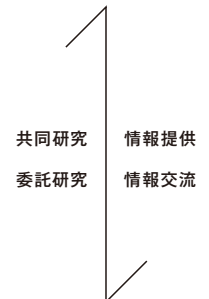
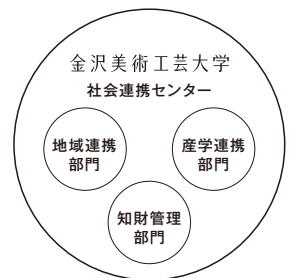
教員の指導により研究を推進。学生の新しい視点での発想、現実性の高い成果が期待できます。

**プロフェッショナル型**

教員との研究。ハイレベルで実践的な研究成果が期待できます。

**NETWORK  
社会連携**

他大学・研究機関とのパートナーシップを深め、実現性の高いハイクラスの研究を推進します。



## FLOW 活動の流れ

以下のような、求められる課題や相談に対し、よりよき成果をめざして、確かな体制と綿密プロセスをベースに研究を進めています。

- 商品の企画・開発にデザインを利用したい
- CI・ブランド開発にデザインを活用したい
- マーケティングにデザインを活用したい
- 店舗・施設の開発にデザインを活用したい
- 伝統工芸の専門技術を商品開発に活用したい
- 美術（芸術）分野の専門知識を商品開発に活用したい



- ・研究目的
- ・研究体制・研究方法
- ・研究期間・研究予算
- ・研究成果予測
- ・その他事務手続き等



- ・経費明細
- ・支払条件等



- ・知的財産権の取扱い
- ・研究成果の公表時期
- ・機密保持に関する取り決め等



- ・オリエンテーション
- ・調査
- ・研究・デザイン制作等
- ・プレゼンテーション
- ・試作
- ・製品化等

事例に応じた研究内容をご用意できます。



- ・研究成果報告書の作成
- ・特許等の出願・契約等の締結

## FIELD 活動領域

美術・工芸・デザインから芸術学まで、本学に蓄積された有形無形の資産をベースに、気鋭のプロフェッショナル達がハイレベルの研究活動を推進します。

本学の教員は、それぞれが独立したプロの作家、デザイナー、研究者です。活躍する分野はもちろん、年齢、経歴、ネットワークも様々な人材が、才能にあふれる学生たちとともに連携事業の研究活動を推進します。

### 美術系

日本画 / 油画 / 彫刻 / 芸術学

### デザイン系

視覚デザイン / 製品デザイン / 環境デザイン / ファッションデザイン

### 工芸系

陶磁 / 漆・木工 / 鋳金・彫鍛金 / 染・織

### 専門領域分野

ヴィジュアルコミュニケーション  
 広告デザイン  
 サインデザイン  
 映像・メディアデザイン  
 Web デザイン  
 パッケージデザイン  
 ユニバーサルデザイン  
 インターフェイスデザイン  
 情報機器デザイン  
 輸送機器デザイン  
 家具デザイン  
 生活関連用品デザイン  
 都市計画デザイン  
 建築デザイン  
 インテリアデザイン  
 ディスプレイデザイン  
 ランドスケープデザイン  
 ファッションデザイン  
 テキスタイルデザイン  
 陶芸  
 漆芸  
 木工  
 彫鍛金  
 鋳金  
 染織  
 モニュメント  
 壁画  
 材料・修復

## 過去5年間の社会連携研究数

| 年度         | 総数  | 地域連携事業 | 産学連携事業 | 連携協定事業 |
|------------|-----|--------|--------|--------|
| 2012 (H24) | 31  | 17     | 14     |        |
| 2013 (H25) | 49  | 32     | 17     |        |
| 2014 (H26) | 46  | 27     | 19     |        |
| 2015 (H27) | 34  | 18     | 16     |        |
| 2016 (H28) | 34  | 16     | 11     | 7      |
| 計          | 194 | 110    | 77     | 7      |



公立大学法人 金沢美術工芸大学  
 一般社団法人 北陸地区信用金庫協会  
 第11回 しんきんビジネスフェア 出展  
 2016年10月19日 石川県産業展示館



公立大学法人 金沢美術工芸大学  
 北陸先端科学技術大学院大学・中小機構北陸本部  
 マッチングハブ金沢 2016 出展  
 2016年11月2日 ホテル日航金沢



公立大学法人 金沢美術工芸大学  
 2015年度 社会連携研究成果報告書  
 第43回 石川県デザイン展  
 石川県印刷工業組合理事長賞  
 2016年11月17日～20日 いしかわ県政記念いのき迎賓館

# 080 >> 095

|     |   |    |
|-----|---|----|
| 080 | 金沢マラソン 2016 完走メダルデザイン   | 6  |
| 081 | 四日市こども科学セミナー<br>人工衛星と電波反射器を利用した地上絵の制作                                     | 7  |
| 082 | 新天地商店街まちなか美術館に関する<br>作品展示および路上アート   | 8  |
| 083 | 泉野図書館・金沢美術工芸大学共同企画<br>10周年記念展「ことば 前期展 後期展」                                | 9  |
| 084 | ホスピタリティアート・プロジェクト 第20回<br>光の回廊シリーズ(その8)<br>「夏の冒険」ワークショップ・作品展示             | 10 |
| 085 | ホスピタリティアート・プロジェクト 第21回<br>第5回ホスピタル・ギャラリー<br>— 病院が美術館になる日「安らぎのいろ・かたち・味わい」— | 11 |
| 086 | 小学生と高齢者の交流促進のための<br>「ものづくり方法」の研究  | 12 |
| 087 | 金沢市立安江金箔工芸館<br>ウインドウディスプレイ<br>企画・デザイン                                     | 13 |
| 088 | おもてなし気運醸成に関する<br>広報物の企画・デザイン等の提案(食文化)                                     | 14 |
| 089 | 三大都市圏等における<br>総合的なプロモーションを展開するための<br>誘致ポスター制作                             | 15 |
| 090 | 金沢 21世紀工芸祭 工芸回廊   | 16 |
| 091 | ホスピタリティ・ライブラリープロジェクト<br>図書館で過ごす時間を豊かにする椅子<br>～金沢海みらい図書館を舞台に考察～            | 17 |
| 092 | かなざわエコフェスタ 2016 出展事業  | 18 |
| 093 | 石川県立盲学校 「触れてみる彫刻展」  | 19 |
| 094 | 金沢の森育推進事業における絵本<br>「森のめぐみと動物たち」の制作  | 20 |
| 095 | アートベース石引における展示活動  | 21 |

# 080

## 金沢マラソン 2016 完走メダルデザイン

第2回金沢マラソンは、2016年10月23日、13,265名のランナーが全国各地や海外から訪れ、金沢の街を疾走した。

昨年に続き、完走者に贈るメダルのデザインを手がけた。金沢らしいオリジナリティのあるデザインで好評であった昨年度のメダルデザインを上回るというハードルの高いミッションでスタートしたデザイン開発に、製品デザイン専攻3年生14名の学生が参加した。今年も数多くのすばらしい案が提案された。

その中からより優れたデザインの4案に絞り込み、実物大のモデルを制作し、最終プレゼンテーションの結果、松浦克彦君の作品が選ばれた。加賀藩前田家の梅鉢紋と金沢を流れる2本の川、そして雪吊りをモチーフにしたメダルは、金沢らしさの溢れる演出で、大変質の高い仕上がりとなった。メダルは12,828名の完走したランナーに手渡され、大好評であった。



**【委託者】**  
金沢市 市民局 マラソン推進課

**【期間】**  
2016年4月1日 - 2017年3月31日

**【研究体制】**  
プロジェクト型

**【担当教員】**  
浅野 隆 教授 デザイン科製品デザイン専攻

**【参加学生】**

1期

|        |            |
|--------|------------|
| 浅見 日向子 | 製品デザイン専攻3年 |
| 飯島 泰昭  | 製品デザイン専攻3年 |
| 大河内 悠  | 製品デザイン専攻3年 |
| 越智 梓   | 製品デザイン専攻3年 |
| 清水 翔太  | 製品デザイン専攻3年 |
| 高村 恵花  | 製品デザイン専攻3年 |
| 津野 茜   | 製品デザイン専攻3年 |
| 時岡 翔太郎 | 製品デザイン専攻3年 |
| 長谷川 尚実 | 製品デザイン専攻3年 |
| 平井 七海  | 製品デザイン専攻3年 |
| 松浦 克彦  | 製品デザイン専攻3年 |
| 本山 貴大  | 製品デザイン専攻3年 |
| 山本 茉優子 | 製品デザイン専攻3年 |
| 渡邊 奈々重 | 製品デザイン専攻3年 |

2期

|       |            |
|-------|------------|
| 大河内 悠 | 製品デザイン専攻3年 |
| 越智 梓  | 製品デザイン専攻3年 |
| 松浦 克彦 | 製品デザイン専攻3年 |
| 本山 貴大 | 製品デザイン専攻3年 |

**【開発日程】**

2016年

|        |                                  |
|--------|----------------------------------|
| 2月23日  | オリエンテーション<br>概要、デザイン条件等説明        |
| 4月14日  | アイデアミーティング                       |
| 4月22日  | アイデア発表会                          |
| 5月     | アイデア選考、4案に絞る                     |
| 6月16日  | アイデアプレゼンテーション<br>PPTとモデルでコンセプト説明 |
| 6月24日  | 最終案への決定報告                        |
| 7月25日  | 市長への試作品完成報告                      |
| 8月     | 市役所にて市民に公開                       |
| 9月-10月 | 量産、デザインフォロー                      |
| 10月23日 | マラソン大会開催、完走者に配布                  |



デザインを手がけた松浦克彦君（市長への完成報告会）



市役所で市民に公開

# 081

## 四日市子ども科学セミナー 人工衛星と電波反射器を利用した地上絵の制作



平成 28 年度 四日市子ども科学セミナー「だいちの星座～電波反射器をつくって大地に星座を描こう!」（主催：四日市市教育委員会）が企画され、四日市市立博物館の依頼により地域連携事業として金沢美術工芸大学美術科准教授 鈴木浩之が、宇宙航空研究開発機構 地球観測研究センター 研究開発員 大木真人と共同で開発中の芸術プログラム「だいちの星座」を実施した。

本プログラムは地球観測衛星「だいち 2 号」と電波反射器を利用して、四日市市内の小学生親子らを対象として募集した参加者らと共に、地上に新しい星座を描く内容で、電波反射器をつくるワークショップと、「よっかいち座」を構成する星の配置が四日市大学にて行われた。撮像された人工衛星画像は印刷され、当日の様子を伝える写真と共に四日市博物館 5 階の JAXA 展示コーナーに展示され、多くの参加者や市民が観賞した。



「よっかいち座」ポスター



レクチャーとワークショップの様子（四日市大学）

【委託者】  
四日市市立博物館

【期間】  
2016 年 8 月 20 日—21 日

【研究体制】  
プロフェッショナル型

【担当教員】  
鈴木 浩之 准教授 美術科油画専攻

【参加学生】

|        |              |
|--------|--------------|
| 山本 佳奈  | 視覚デザイン専攻 3 年 |
| 澤合 妙英  | 視覚デザイン専攻 3 年 |
| 養父 凜   | 視覚デザイン専攻 3 年 |
| 大津 裕貴  | 視覚デザイン専攻 3 年 |
| 岡村 早矢花 | 視覚デザイン専攻 3 年 |
| 荻田 瑞絵  | 視覚デザイン専攻 3 年 |
| 熊木 良太  | 視覚デザイン専攻 3 年 |
| 呉藤 結咲  | 視覚デザイン専攻 3 年 |
| 坂本 裕汰  | 視覚デザイン専攻 3 年 |
| 佐藤 凌介  | 視覚デザイン専攻 3 年 |
| 篠田 彩音  | 視覚デザイン専攻 3 年 |
| 高原 龍彦  | 視覚デザイン専攻 3 年 |
| 田中 裕梨  | 視覚デザイン専攻 3 年 |
| 辻 ひとみ  | 視覚デザイン専攻 3 年 |
| 杼元 淳   | 視覚デザイン専攻 3 年 |
| 日比野 真愛 | 視覚デザイン専攻 3 年 |
| 松浦 朱里  | 視覚デザイン専攻 3 年 |
| 松田 菜生子 | 視覚デザイン専攻 3 年 |
| 水野 早希  | 視覚デザイン専攻 3 年 |
| 山田 明子  | 視覚デザイン専攻 3 年 |
| 山戸 蒔   | 視覚デザイン専攻 3 年 |
| 横山 茜   | 視覚デザイン専攻 3 年 |
| 吉本 穂花  | 視覚デザイン専攻 3 年 |
| 渡辺 雅夫  | 視覚デザイン専攻 3 年 |

【開発日程】

2016 年

|     |  |
|-----|--|
| 4 月 | 四日市博物館担当者との打ち合わせ（金沢美術工芸大学）                       |
| 7 月 | 共同研究者と使用機材等について打ち合わせ（茨城県つくば市）                    |
| 8 月 | 人工衛星からの観測用電波の受信テスト（茨城県常陸大宮市）<br>ワークショップ、地上絵制作の実施 |
| 9 月 | 完成した「よっかいち座」の展示                                  |



ワークショップ製作された電波反射器を持って地上絵の制作に向かう参加者（四日市大学グラウンド）



展示の様子（四日市博物館）

# 082

## 新天地商店街まちなか美術館に関する 作品展示および路上アート



工芸作品展示



商店街店主の似顔絵制作



ライブペインティング



来場者の似顔絵制作

金沢市の新天地商店街や学生のまち交流館を中心に、進歩的でアートな街「新天地」を発信することを目的とし、新天地商店街夏祭りの機会にあわせ、夏祭り会場付近において作品展示やライブペインティング、似顔絵、作品販売等を展開した。

絵画・工芸・彫刻の展示は、学生のまち市民交流館1階サロン、和室、土蔵(工芸)で、ライブペインティングは新天地商店街広見で行った。例年と趣が異なる「アートな街」の出現に、来場者、商店街近隣からの参加者は新鮮味を感じていたようである。また、本学学生の手による商店街店主の似顔絵を組み合わせた、切り灯籠を思わせる塔が会場内に設置され、地元商店街の人々から好評を博した。全ての企画をとおして、のべ54名の学生が関わる大掛かりなものとなった。

### 店主似顔絵制作

- 伊藤 真里奈 油画専攻1年
- 木須 菜々美 油画専攻1年
- 高橋 初音 油画専攻1年
- 立山 華保 油画専攻1年
- 中村 清夏 油画専攻1年
- 宮崎 苑美 油画専攻1年
- 北島 早耶香 油画専攻2年
- 阿部 汐夏 日本画専攻1年
- 安達 穂乃香 日本画専攻1年
- 南野 和 日本画専攻1年
- 井上 知美 大学院修士課程絵画専攻  
日本画コース2年
- 田中 茉優 大学院修士課程絵画専攻  
日本画コース2年

### ライブペインティング

- 山本 いちご 油画専攻1年
- 川邊 優美子 油画専攻3年

### 似顔絵制作(夏祭り会場)

- 今江 綾子 油画専攻2年
- 宮崎 竜成 油画専攻3年

### 【開発日程】

- 2016年
- 5月13日 第1回打ち合わせ
  - 6月8日 第2回打ち合わせ
  - 6月13日~23日  
新天地店主顔写真撮影
  - 7月28日 新天地店主似顔絵完成
  - 8月3日 各店頭に似顔絵設置
  - 8月10日~24日  
テレビ金沢にてCM放送開始
  - 8月25日 展示作品搬入(金沢学生の  
まち市民交流館)
  - 8月26日 作品展示・販売
  - 8月27日 「新天地夏祭り」作品展示・  
販売(金沢学生のまち市民  
交流館)、店主似顔絵の塔、  
ライブペインティング、会場  
内似顔絵、作品展示販売(会  
場内テント)
  - 8月30日 撤出

|                 |                        |
|-----------------|------------------------|
| 【委託者】           |                        |
| 新天地商店街振興組合      |                        |
| 【期間】            |                        |
| 2016年6月1日—8月31日 |                        |
| 【研究体制】          |                        |
| プロジェクト型         |                        |
| 【担当教員】          |                        |
| 三浦 賢治 教授        | 美術科油画専攻                |
| 佐藤 俊介 教授        | 美術科日本画専攻               |
| 山本 健史 教授        | 工芸科                    |
| 【参加学生】          |                        |
| 作品展示・販売         |                        |
| 伊藤 真里奈          | 油画専攻1年                 |
| 塚原 由子           | 油画専攻1年                 |
| 山本 いちご          | 油画専攻1年                 |
| 山本 莉沙           | 油画専攻1年                 |
| 生田 沙希           | 油画専攻3年                 |
| 山岸 耕輔           | 油画専攻3年                 |
| 宮崎 竜成           | 油画専攻3年                 |
| 飯田 咲祈           | 大学院修士課程絵画専攻<br>油画コース1年 |
| 後藤 美柚           | 大学院修士課程絵画専攻<br>油画コース1年 |
| 張 陽太            | 大学院修士課程絵画専攻<br>油画コース1年 |
| 畑 美砂子           | 大学院修士課程絵画専攻<br>油画コース1年 |
| 三輪 瑛士           | 大学院修士課程絵画専攻<br>油画コース1年 |

|        |                                |
|--------|--------------------------------|
| 早川 璃   | 大学院修士課程絵画専攻<br>油画コース2年         |
| 米田 貫雅  | 大学院修士課程絵画専攻<br>油画コース2年         |
| 阿部 汐夏  | 日本画専攻1年                        |
| 石田 香   | 大学院修士課程絵画専攻<br>日本画コース1年        |
| 西村 脩   | 大学院修士課程絵画専攻<br>日本画コース1年        |
| 井上 知美  | 大学院修士課程絵画専攻<br>日本画コース2年        |
| 向井 菜摘  | 大学院修士課程絵画専攻<br>日本画コース2年        |
| 田中 茉優  | 大学院修士課程絵画専攻<br>日本画コース2年        |
| 山口 理恵  | 大学院博士後期課程美術工芸<br>専攻美術領域日本画分野1年 |
| 尾崎 太亮  | 大学院修士課程彫刻専攻1年                  |
| 高橋 直宏  | 工芸科3年                          |
| 安藤 果穂  | 工芸科3年                          |
| 大江 絵   | 工芸科3年                          |
| 菊池 晴菜  | 工芸科3年                          |
| 笹谷 美月  | 工芸科3年                          |
| 佐藤 磨以子 | 工芸科3年                          |
| 百歩 陽子  | 工芸科3年                          |
| 小川 由利子 | 工芸科4年                          |
| 田邊 樹美  | 工芸科4年                          |
| 小島 康加  | 工芸科4年                          |
| 田中 陽子  | 大学院修士課程工芸専攻2年<br>陶磁コース         |
| 金保 洋   | 大学院修士課程工芸専攻2年<br>漆・木工コース       |



# 083

## 泉野図書館・金沢美術工芸大学共同企画 10周年記念展 「ことば 前期展 後期展」

市民が気軽に芸術に触れる機会を創出することを目的として、過去9年にわたり、隔年で泉野図書館2Fアートロビーにおいて、金沢美術工芸大学大学院生を中心とした作品展示を行ってきた。本展では10周年記念展として2期に分け、絵画展示では日本画、油画コース合同で行うこととし、加えて環境デザイン専攻による会場の空間を生かした展示も同時開催することを念頭に、本学と金沢市立泉野図書館による打ち合わせが行われた。

今回は本学大学院美術工芸研究科修士課程絵画専攻日本画コース、油画コース1年生による作品（主に絵画、前期展、後期展とも18点）と「私のおすすめ本」の展示、および、環境デザイン専攻学生（学部1年次～修士課程2年次）による空間展示が行われた。この展示は、筒を覗くという動作によって人と本の歩みよりを誘う装置で、人と本の出会い方をデザインすることで、人はその本の性格の一部に触れることができる。

会期中で製品デザイン専攻学生による、「ホスピタリティ・チェアーズ」～音楽を聴くように読書の時間を楽しむ椅子～の展示も加わり、来館者の好評を得た。これらの椅子は、音楽の持つ「ことば」と「メロディー」からイメージされた心地よい形と座り心地を追求してデザインされている。



前期展示



前期展示



後期展示

【委託者】

金沢市立泉野図書館

【期間】

ことば前期展

2016年9月7日—10月3日

ことば後期展

2016年11月2日—11月27日

空間展示

2016年9月7日—11月27日

椅子展示

2016年11月2日—11月27日

【研究体制】

プロジェクト型

【担当教員】

三浦 賢治 教授 美術科油画専攻

佐藤 俊介 教授 美術科日本画専攻

坂本 英之 教授 デザイン科環境デザイン専攻

根来 貴成 准教授 デザイン科製品デザイン専攻

【参加学生】

前期展

内田 望美 大学院修士課程絵画専攻  
油画コース1年

金尾 奈瑠美 大学院修士課程絵画専攻  
油画コース1年

河邊 実生子 大学院修士課程絵画専攻  
油画コース1年

畑 美砂子 大学院修士課程絵画専攻  
油画コース1年

山口 峻司 大学院修士課程絵画専攻  
油画コース1年

山本 武明 大学院修士課程絵画専攻  
油画コース1年

後期展

飯田 咲祈 大学院修士課程絵画専攻  
油画コース1年

石田 香 大学院修士課程絵画専攻  
日本画コース1年

後藤 美袖 大学院修士課程絵画専攻  
油画コース1年

張 陽太 大学院修士課程絵画専攻  
油画コース1年

西村 脩 大学院修士課程絵画専攻  
日本画コース1年

三輪 瑛士 大学院修士課程絵画専攻  
油画コース1年

空間展示

田中 夏実 環境デザイン専攻1年

藤原 なつき 環境デザイン専攻1年

岩政 音緒 環境デザイン専攻2年

平野 絢 環境デザイン専攻2年

鈴木 駿太 環境デザイン専攻3年

西川 啓 環境デザイン専攻3年

川上 すみれ 環境デザイン専攻4年

谷 清風 環境デザイン専攻4年

泊 舞香 環境デザイン専攻4年

仲津 佑哉 環境デザイン専攻4年

早川 真央 環境デザイン専攻4年

堀場 絵吏 大学院修士課程デザイン専攻  
環境デザインコース2年

椅子展示

池田 有希 製品デザイン専攻4年

石田 晴希 製品デザイン専攻4年

一丸 真奈美 製品デザイン専攻4年

江原 次郎 製品デザイン専攻4年

黒澤 秀 製品デザイン専攻4年

桑原 孝史 製品デザイン専攻4年

合田 貴子 製品デザイン専攻4年

武井 堯子 製品デザイン専攻4年

松本 優子 製品デザイン専攻4年

溝越 万莉 製品デザイン専攻4年

【開発日程】

2016年

6月10日 金沢美大教員、事務局、  
社会連携センター担当者と  
泉野図書館担当者による  
合同打ち合わせ

9月6日 ことば前期展作品搬入、  
展示

9月7日—10月3日  
ことば前期展開催

9月7日—11月27日  
空間展示開催

11月1日 ことば後期展作品搬入、  
展示

11月2日—27日  
ことば後期展



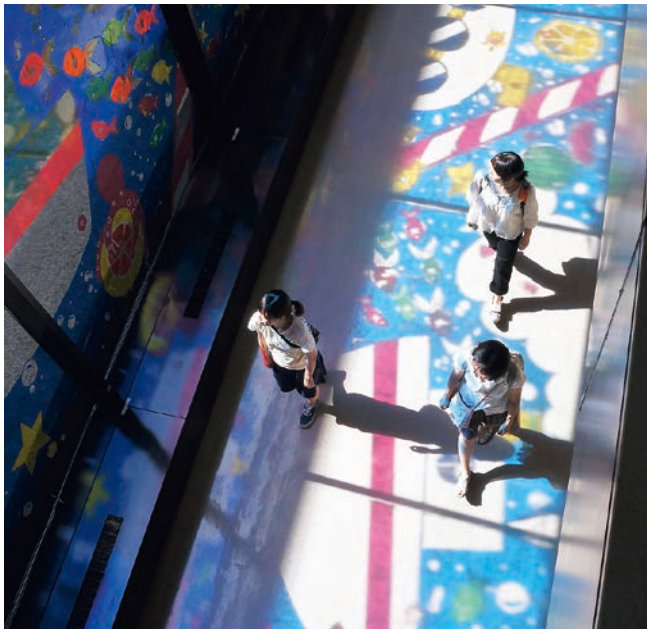
空間展示



椅子展示

# 084

## ホスピタリティアート・プロジェクト 第20回 光の回廊シリーズ(その8) 「夏の冒険」ワークショップ・作品展示



光の回廊

金沢市立病院と金沢美術工芸大学との連携により、医療分野におけるアートの潜在的な可能性を探索する事を目的とした「ホスピタリティアート・プロジェクト」第20回企画として、今年度の「光の回廊シリーズ~その8」ワークショップ・展示は、「夏の冒険」と題し実施された。病院1階待合ホール大ガラスに患者、医療者、学生の協働によりステンドグラス風の装飾を施されるこのワークショップ・展示企画は、病院の恒例行事のように病院関係者および周辺地域に受け入れられている。図案会議に始まり、大学での下準備、ワークショップ、展示、撤収に至るまでを例年通り無事に終えることができた。また今年度からは本格的な足場を組み、より安全な環境で作業を行うことができた。このプロジェクトでは医療環境に彩りの空間を現出させ、通院・入院患者、医療関係者の日常に癒しの効果を与えているが、重要なことは、ワークショップにより患者、医療関係者、協力学生が同じ視点で時間を共有することで現出するコミュニケーションの有り様である。

プロジェクトを成功裏に終えることができた要因は、本学と市立病院との連携もさることながら、協力学生の献身的な作業に依るところが大きい。ボランティアとして労を惜みず作業に携わる彼等の姿を見て、この活動を本学の美術教育に具体的に還元させる必要を感じている。



光の回廊



病院での制作

【委託者】

金沢市立病院

【期間】

ワークショップ

2016年8月23日 13:00 - 16:00

館内展示

2016年8月23日 - 9月15日

【研究体制】

プロジェクト型

【担当教員】

三浦 賢治 教授 美術科油画専攻  
ホスピタリティアート・コーディネーター

岩崎 純 准教授 美術科油画専攻

【参加学生】

秋山 雅貴 油画専攻1年  
伊木 さなえ 油画専攻1年  
伊藤 万里子 油画専攻1年  
伊藤 真里奈 油画専攻1年  
木須 菜々美 油画専攻1年  
高橋 初音 油画専攻1年  
立山 華保 油画専攻1年  
塚原 由子 油画専攻1年  
中村 清夏 油画専攻1年  
松川 祐実 油画専攻1年  
山崎 涼太郎 油画専攻1年

今江 綾子 油画専攻2年  
棚部 芹 油画専攻2年  
塚田 華都緋 油画専攻2年  
角田 優美 油画専攻2年  
升澤 春奈 油画専攻2年  
四本 優南 油画専攻2年  
坪井 一 油画専攻3年  
平山 森 油画専攻3年  
藤原 保奈美 油画専攻3年  
古中 雄二 油画専攻3年  
星原 健人 油画専攻3年  
宮崎 竜成 油画専攻3年  
山岸 耕輔 油画専攻3年  
大野 三結 油画専攻4年  
野木 麻美 油画専攻4年  
河原 万生子 日本画専攻4年  
山本 武明 大学院修士課程絵画専攻  
油画コース1年  
米田 貫雅 大学院修士課程絵画専攻  
油画コース2年

【開発日程】

2016年

6月20日 第1回企画会議  
7月1日 第2回企画会議  
7月1日 市立病院下見  
7月22日 材料確認、発注  
7月25日 第3回企画会議(図案決定)  
8月12日 「HAP Tシャツ」完成  
8月16日~18日  
大学での制作、下準備  
(ワークショップ材料・セロファンパーツ)  
8月中旬 市広報にお知らせ  
(市立病院発信)  
8月19日 脚立、足場、コンパネ等の  
資材搬入  
8月21日 大ガラスの装飾開始  
8月22日 ステンドグラス制作  
8月23日 ステンドグラス制作  
ワークショップを経て完成  
9月15日 撤収  
(セロファン剥がし、資材搬  
出)



ワークショップ



完成

# 085

## ホスピタリティアート・プロジェクト 第21回 第5回ホスピタル・ギャラリー

—病院が美術館になる日「安らぎのいろ・かたち・味わい」—

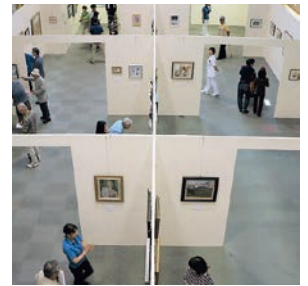


平成21年度より金沢市立病院と金沢美術工芸大学との連携のもと、取り組んできたホスピタリティアート・プロジェクト (HAP) の一環として、病院がより市民の方々に身近な施設となるための「市民がつくる安らぎの医療」をメインテーマに、平成24年度よりホスピタル・ギャラリーを開催している。

第5回となる本展においても、市民、患者、登録医、介護施設などから募り、作品募集テーマ「安らぎのいろ・かたち・味わい」の趣旨に賛同して集まった絵画、彫刻、書、手芸、工芸等の175点の作品群によって、病院の待合いホールには3日間限定の美術館とも言える展示空間が創出された。最終日には市民アドバイザーや出品者によるギャラリートークも行われ、中秋の市立病院待合ホールには和やかなコミュニケーション空間が紡ぎ出された。美大関係者のみならず、病院の医師、看護師も一体となって展覧会の運営に積極的に携わる点において、全国的に見ても希な取り組みであると言える。



図案会議



会場風景

【委託者】

金沢市立病院

【期間】

ギャラリー開催

2016年9月17日—9月19日

9:30—17:00

ホスピタル・ギャラリートーク

9月19日 15:30—17:00

【研究体制】

プロジェクト型

【担当教員】

三浦 賢治 教授 美術科油画専攻  
ホスピタリティアート・コーディネーター

岩崎 純 准教授 美術科油画専攻

横川 善正 名誉教授 金沢市立病院  
ホスピタリティアート・プロジェクト顧問

【参加学生】

ポスター、DM、フライヤー制作

伊藤 真里奈 油画専攻1年

設営

秋山 雅貴 油画専攻1年

久保田 航 油画専攻1年

伊藤 真里奈 油画専攻1年

松川 祐実 油画専攻1年

升澤 春奈 油画専攻2年

古中 雄二 油画専攻3年

飯田 咲祈

大学院修士課程絵画専攻  
油画コース1年

河邊 実生子

大学院修士課程絵画専攻  
油画コース1年

撤収

秋山 雅貴

油画専攻1年

伊藤 真里奈

油画専攻1年

松川 祐実

油画専攻1年

升澤 春奈

油画専攻2年

古中 雄二

油画専攻3年

金沢市立病院スタッフ

ホスピタリティアート・プロジェクトメンバー

院長

高田 重男

眼科

横川 由起子

小児科

瀬野 晶子

消化器内科

辻 宏和

看護部

中町 麻紀子 坂尻 裕子

松本 明美 北 悠里華

内藤 友実 安藤 直樹

岩瀬 匠

放射線室

安土 佳宏

リハビリテーション室

大坪 尚典 中島 孝

堤 美紀

臨床検査室

大島 有加

薬剤室

小路 晃平

医事室

北野 弘之

事務局

岩井 隆之 大和 裕紀

市民アドバイザー

富地 晃裕 野川 勝紀

ギャラリートーク担当

駒井 順子 浜崎 恵利

平和町大通り商店街振興組合

理事長 村中 忠雄

理事 木下 明彦

【開催日程】

2016年

5月19日 ホスピタリティアート

合同会議

6月28日 企画会議

6月29日 ポスター、作品募集要項、  
DM入稿

7月5日—8月19日  
作品募集、案内

7月11日 ポスター、DM、作品募集  
要項入荷

8月4日 展覧会フライヤー入荷

9月5日—15日

作品搬入、受付

9月13日、14日  
ギャラリー開催案内(新聞  
広報、記事提供、FB)

9月16日 展示作業、展覧会目録入荷

9月17日—19日

ギャラリー開催

9月19日 撤収、作品返却



会場風景



ギャラリートーク

# 086

## 小学生と高齢者の交流促進のための「ものづくり方法」の研究

金沢市立明成小学校 2 年生の生活科授業において、地域の高齢者（此花地区社会福祉協議会）との交流会を持ち、「ものづくり」に取り組む活動である。今回は、金沢市立病院におけるホスピタリティアート・プロジェクトで実施されているステンドグラス風の装飾を参考にして、その制作方法を交流会仕様アレンジし、「地域サロン」の場で小学生と高齢者につくってもらった企画であった。参加人数は小学生、高齢者合わせて 70 名ほどであった。金沢市立病院でのホスピタリティアート・プロジェクトの紹介をスライドで行った後にワークショップに移った。

一人分の材料として A4 サイズの透明アクリル板と約 10 センチ角のカッティングシート（透明色 6 色）を準備し、参加者が用意してきた下絵を基にハサミで切り貼りして絵をつくった。出来上がったものを会場の大ガラスに掲示すると様々な図柄が集まったステンドグラスのようになった。作業中は机越しに向かい合った小学生と高齢者が相談し合い、出来上がった作品の感想を述べ合うなどの交流の様子が見られた。



ホスピタリティアート・プロジェクトの紹介



ワークショップ



完成作品



完成作品

【委託者】

此花地区社会福祉協議会

【期間】

講演・ワークショップ  
2016 年 10 月 7 日  
10:00 - 11:30

【研究体制】

プロフェッショナル型

【担当教員】

三浦 賢治 教授 美術科油画専攻

# 087

## 金沢市立安江金箔工芸館 ウインドウディスプレイ 企画・デザイン

金箔に対する金沢の人たちの並々ならぬ情熱と努力を共感していただくために、金沢市立安江金箔工芸館のウインドウスペースにディスプレイを企画・デザインした。

金箔の英語表記「Gold leaf」から豪華さと繊細さを兼ね備えた生命樹をイメージし、厚さ1万分の1ミリメートルの金箔に込められた、先人たちの熱い思いを黄金色に輝く幹として表現し、葉をバランスよく配置することにより、生命力溢れる空間を演出した。



緑付（えんつけ）工房見学



デザイン案の提案

【委託者】

金沢市立安江金箔工芸館  
金沢箔技術振興研究所

【期間】

2016年5月20日 - 2017年3月17日

【研究体制】

プロジェクト型

【担当教員】

畝野 裕司 教授 デザイン科環境デザイン専攻

【参加学生】

宮本 夏帆 環境デザイン専攻2年  
長谷川 晶子 環境デザイン専攻2年  
森 真衣子 環境デザイン専攻1年  
山本 菜央 環境デザイン専攻1年

【開発日程】

2016年

- 5月20日 オリエンテーション
- 6月13日 伝統工芸士 緑付（えんつけ）工房見学
- 6月27日 金箔工芸館見学・箔商工業協同組合との顔合わせ
- 7月7日 恩地金属箔粉株式会社 見学
- 7月8日 株式会社今井金箔 金箔体験
- 8月9日 天池合織株式会社 天女の羽衣見学
- 8月16日 箔商工業組合へプレゼンテーション
- 10月24日 ナカダ株式会社様から見積もりと最終施工案プレゼンテーション

2017年

- 3月17日 現地完成報告会



模型



最終プレゼンテーション

## 088

おもてなし気運醸成に関する  
広報物の企画・デザイン等の提案(食文化)

金沢駅東広場もてなしドームに、新幹線の来街者をお出迎えし、おもてなし気運を高めるための大型タペストリーを、今年度は「食文化」に訴求するデザインとし、百万石まつり終了後の6月6日から掲出しました。

市外からいらっしゃった皆様に、日本中のどの都市とも違う食文化が金沢にあることを訴求することを通じて、旅の大きな目的・リピート理由である四季折々の旬の素材や料理と出会いたい、という気持ちを喚起し、年間を通じた誘客に繋がります。同時に「食にスポットライトを当てていく」という方針を市民と共有し、併せておもてなしの心を醸成しました。

デザインは、平成27年に作成した金沢の食文化をPRするシンボルマークとスローガンをを用いて制作、外国人にも訴求させるため、英語表記を新たに記載し、両面でパターンを変え、2つのデザインを楽しめるように工夫しました。



## 【委託者】

金沢市 経済局 営業戦略部 観光政策課  
観光係

## 【期間】

2016年4月 - 2016年6月

## 【研究体制】

プロフェッショナル型

## 【担当教員】

宮崎 晋 客員教授 デザイン科視覚デザイン専攻  
寺井 剛敏 教授 デザイン科視覚デザイン専攻

## 【協力】

視覚デザイン卒業生チーム

## 【開発日程】

2016年

4月 オリエンテーション  
5月 コピー及びデザイン案検討  
6月 百万石まつり終了後より  
掲出

# 089

## 三大都市圏等における 総合的なプロモーションを展開するための 誘致ポスター制作

金沢への更なる誘客を促進するため、金沢市役所と連携し、「にじみ」の技法を用いた味わいのある観光ポスター（「ことじ灯籠」と「和傘」の2種類）を制作しました。9月中下旬より、三大都市圏及び東北をはじめとした東日本エリアのJR主要駅で一斉に掲出しました。

コンセプトは、雨の日も愉しめる、大人の街。北陸新幹線開業を迎えて一年が経ち、人気の観光地となった金沢。古き良き日本とアートが融合し、大人びた街・金沢の魅力をよりいっそう深掘するため、「雨の金沢」をテーマにポスターを制作しました。雨の日の金沢を訪れてみたいくなる、そんなポスターです。

ことじ灯籠や和傘といった伝統的なモチーフを、カラフルなストライプとにじみの技法を使って、モダンに仕上げました。にじみが生むその模様や複雑な色合いは、味わい深い雨の金沢の風景を想像させます。



【委託者】

金沢市 経済局 営業戦略部 観光政策課  
観光係

【期間】

2016年6月—2016年9月

【研究体制】

プロフェッショナル型

【担当教員】

宮崎 晋 客員教授 デザイン科視覚デザイン専攻  
寺井 剛敏 教授 デザイン科視覚デザイン専攻

【協力】

視覚デザイン卒業生チーム

【開発日程】

2016年

- 4月 オリエンテーション
- 5月—7月 コピー及びデザイン案検討
- 8月 コピー及びデザイン案  
最終案決定、デザイン制作
- 9月 三大都市圏及び東日本エ  
リアのJR主要駅で掲出

# 090

## 金沢 21 世紀工芸祭 工芸回廊

これまで金沢青年会議所が中心となって行われてきた「金沢燈涼会」が本年度から主催を金沢市に変え、「金沢 21 世紀工芸祭」として開催されました。工芸作家及び地域の方々が協働し、誇るべき金沢の魅力である町並み、伝統工芸、食文化、伝統芸能、茶の湯文化などを国内外に発信することが目的です。毎年、地域の方々の協力を得て開催してきた本事業は、金沢でしか出来ないシチュエーションで、金沢の工芸の魅力を日本のみならず世界に紹介し発信する機会となりました。

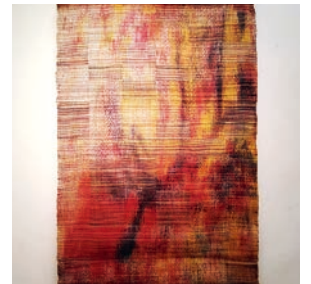
金沢美術工芸大学工芸科は「金沢 21 世紀工芸祭」のなかの一企画である「工芸回廊」に陶磁、漆・木工、金工、染織を学ぶ大学院生 10 名が作品を展示しました。10 月 15 日（土）16 日（日）には参加学生によるアーティストトークを行い、多くの来場者に作品制作への考え方や技術素材に関する話をしました。作品展示だけでは理解できないところまで踏み込むことで多くの来場者の共感を得ることができました。



蝕金象嵌蓋置「月の森」 黄 照津



「跡 15-04」 鶴飼 康平



「色づく」 新村 和泉

【委託者】

公益社団法人 金沢青年会議所

【期間】

2016 年 10 月 13 日 — 16 日

10:00 — 17:00

石川県立歴史博物館 ギャラリー

【研究体制】

プロジェクト型

【担当教員】

山本 健史 教授 工芸科

【参加学生】

- |       |                            |
|-------|----------------------------|
| 鶴飼 康平 | 大学院修士課程工芸専攻<br>漆・木工コース 1 年 |
| 金保 洋  | 大学院修士課程工芸専攻<br>漆・木工コース 2 年 |
| 木谷 洋  | 大学院博士課程工芸専攻<br>金工コース 2 年   |
| 黄 照津  | 大学院博士課程工芸専攻<br>金工コース 3 年   |
| 佐藤 文  | 大学院修士課程工芸専攻<br>陶磁コース 1 年   |
| 新村 和泉 | 大学院修士課程工芸専攻<br>染織コース 1 年   |
| 晁 男   | 大学院修士課程工芸専攻<br>漆・木工コース 2 年 |
| 藤本 尚美 | 大学院修士課程工芸専攻<br>漆・木工コース 2 年 |
| 村田 言恵 | 大学院修士課程工芸専攻<br>陶磁コース 2 年   |
| 吉田 まゆ | 大学院修士課程工芸専攻<br>漆・木工コース 1 年 |



「樹下動物回植木釘」 村田 言恵



「無形の輪郭 朱の連想 2016」 金保 洋



# 091

## ホスピタリティ・ライブラリープロジェクト 図書館で過ごす時間を豊かにする椅子 ～金沢海みらい図書館を舞台に考察～



人気投票結果：左上1位、右上2位、左下3位、右下4位

【委託者】

金沢海みらい図書館

【期間】

2016年6月7日—10月31日

【研究体制】

プロジェクト型

【担当教員】

根来 貴成 准教授 デザイン科製品デザイン専攻

【参加学生】

浅見 日向子 製品デザイン専攻3年  
 飯島 泰昭 製品デザイン専攻3年  
 大河内 悠 製品デザイン専攻3年  
 越智 梓 製品デザイン専攻3年  
 小宮山 拓末 製品デザイン専攻3年  
 清水 翔太 製品デザイン専攻3年  
 高村 恵花 製品デザイン専攻3年  
 津 茜 製品デザイン専攻3年  
 時岡 翔太郎 製品デザイン専攻3年  
 長谷川 尚実 製品デザイン専攻3年  
 東元 誠 製品デザイン専攻3年  
 平井 七海 製品デザイン専攻3年  
 松浦 克彦 製品デザイン専攻3年  
 本山 貴大 製品デザイン専攻3年  
 山田 竜也 製品デザイン専攻3年  
 山本 貴太郎 製品デザイン専攻3年  
 山本 茉優子 製品デザイン専攻3年  
 渡邊 奈々重 製品デザイン専攻3年  
 保井 康佑 製品デザイン専攻3年

「図書館で過ごす時間を豊かにする椅子」をテーマに椅子のデザインに取り組んだ。現地視察と来館者や職員にヒアリング調査を行ない、コンセプト立案からデザイン考案、プロトタイプ制作を行ない、オリジナリティー溢れる19脚の椅子を提案した。これらの椅子は、読書が持つ人間の内面に働きかけストレスや不安を軽減する効果を生かし「健康で健全な気持ちを保つ」ことが考慮されている。また、機能性だけでなく、形、色、サイズなども工夫されており読書の時間を楽しませてくれる。展示会初日は、公開プレゼンテーションを行い大きな反響を得た。また、展示期間中には多くの来館者に座ってもらい、200名以上もの人からアンケート調査や人気投票を実施することができた。

過去2年間、金沢市立病院と連携して医療分野におけるアートの潜在的な可能性について調査研究するホスピタリティ・アートプロジェクト、石川県立音楽堂では3年間、音楽がもたらす効果をホスピタリティ・ラウンジプロジェクトとして取り組んだ。今回は、そこで得たノウハウに読書の効果を融合した椅子のデザインを展開した。その結果、新たなリラクゼーションを感じさせる「もてなし」の椅子が提案できたと思う。



金沢海みらい図書館現地視察



図書館利用者へのアンケート調査

【展示日程】

2016年

6月6日 オリエンテーション  
 6月7日 金沢海みらい図書館  
 現地視察  
 6月9日 図書館利用者への  
 アンケート調査  
 6月20日 中間プレゼンテーション  
 図書館関係者からの  
 アドバイス  
 7月4日 椅子の1/1プロトタイプ  
 制作開始  
 8月5日 椅子の1/1プロトタイプ  
 完成  
 9月22日 現地での  
 公開プレゼンテーション  
 9月22日—10月4日  
 現地での展示



制作風景 塗装をしている様子



公開プレゼンテーションと展示

金沢市地球温暖化対策推進協議会が主催する「かなざわエコフェスタ 2016」において、視覚デザイン専攻1年生が制作したダンボールの立体作品を、金沢駅もてなしドーム地下イベント広場で展示し、親子を対象にダンボールお面作りワークショップを開催した。

また、エコバンドも結成され会場を盛り上げた。市民はもとより新幹線等で来られる国内外の方々に地球温暖化を塾考する機会を与えた。

## かなざわエコフェスタ 2016 出展事業



会場風景



作品展示



作品展示

【委託者】

金沢市地球温暖化対策推進協議会  
ヨシダ宣伝株式会社

【会期】

2016年8月5日 - 12月28日

【研究体制】

プロジェクト型

【担当教員】

工藤 俊之 教授(統括) デザイン科視覚デザイン専攻  
後藤 徹 教授 デザイン科視覚デザイン専攻

【参加学生】

|        |            |
|--------|------------|
| 石田 文音  | 視覚デザイン専攻1年 |
| 井原 幹人  | 視覚デザイン専攻1年 |
| 梅野 恵   | 視覚デザイン専攻1年 |
| 占部 愛英  | 視覚デザイン専攻1年 |
| 大賀 愛子  | 視覚デザイン専攻1年 |
| 大坂 楓恋  | 視覚デザイン専攻1年 |
| 岡川 由依  | 視覚デザイン専攻1年 |
| 河崎 ひかり | 視覚デザイン専攻1年 |
| 兒島 祐衣  | 視覚デザイン専攻1年 |
| 小森 晴香  | 視覚デザイン専攻1年 |
| 佐々木 琴音 | 視覚デザイン専攻1年 |
| 佐藤 桃子  | 視覚デザイン専攻1年 |
| 塩木 亜弥  | 視覚デザイン専攻1年 |
| 竹内 彰太郎 | 視覚デザイン専攻1年 |
| 坪田 成未  | 視覚デザイン専攻1年 |
| 新田川 大樹 | 視覚デザイン専攻1年 |
| 久井 沙恵  | 視覚デザイン専攻1年 |
| 水野 理沙  | 視覚デザイン専攻1年 |
| 三好 冬悟  | 視覚デザイン専攻1年 |
| 若尾 陸利  | 視覚デザイン専攻1年 |

【開発日程】

2016年  
7月27日-8月4日 制作  
8月6日-10日 プレ展示(アートベース石引)  
11月12日 搬入  
11月13日 展示(金沢駅もてなしドーム地下イベント広場)  
11月13日 搬出



お面づくり



エコバンド

# 093

## 石川県立盲学校 「触れてみる彫刻展」



会場風景



交流会開始の挨拶

【委託者】

石川県立盲学校

【期間】

2016年4月1日～2017年3月31日

【研究体制】

プロジェクト型

【担当教員】

石田 陽介 教授 美術科彫刻専攻

【参加学生】

大野 紗月 彫刻専攻 1年  
 中嶋 彩乃 彫刻専攻 1年  
 牧嶋 平 彫刻専攻 1年  
 山内 郁人 彫刻専攻 1年  
 岩田 春菜 彫刻専攻 2年  
 仲鉢 涼 彫刻専攻 2年  
 西川 明宜 彫刻専攻 2年  
 山口 幸雄 彫刻専攻 2年  
 高梨 由利佳 彫刻専攻 3年

【開発日程】

2016年  
 5月24日 盲学校山田校長、  
 山下講師来校  
 依頼挨拶および打ち合わせ  
 8月18日 日程、計画等連絡  
 9月9日 開催依頼文受領  
 10月初旬 彫刻専攻学内展にて  
 作品候補リストアップ  
 10月7日 希望作品候補リスト提出  
 展示作品の絞り込み  
 10月12日 出品者選定、作品解説文  
 作成（各学生）  
 点字によるキャプション  
 作成  
 10月24日 作品搬入  
 10月25日～11月4日  
 作品展示期間  
 10月29日 盲学校文化祭（一般公開）  
 11月7日 美大生と生徒の交流会  
 11月9日 礼状および  
 生徒感想文受領



作品解説



作品解説

本展覧会は視覚に障害のある児童生徒の身近に作品を展示することで、時間をかけて美術作品を鑑賞する機会を設けることを目的とし、石川県立盲学校の文化祭を挟んだ時期に、本学彫刻専攻の学生の作品を展示するものである。

この展覧会は平成19年度から毎年開催しており、継続的に取り組むことで、視覚に障害がある児童生徒も鑑賞力が向上し、美術に親しむよい機会となっている。作品展示にとどまらず交流会を設け、学生がそれぞれ自作に込めた想いを語ることで、児童生徒の作品に対する興味関心を深めている。一方、児童生徒からの質問や感想は純粋なものや、日頃の講評会では得られないような観点も多く、学生達の刺激になっている。また、学生は社会と自作や美術との接点を考えるよい機会ともなっている。

# 094

## 金沢の森育推進事業における絵本「森のめぐみと動物たち」の制作



完成した絵本

**[助成・支援者]**

特定非営利活動法人 角間里山みらい

**[期間]**

2016年11月4日—2017年1月31日

**[研究体制]**

プロジェクト型

**[担当教員]**

後藤 徹 教授 デザイン科視覚デザイン専攻

**[参加学生]**

佐藤 文香 視覚デザイン専攻2年

この絵本制作は、金沢市の「協働のまちづくりパートナーシップ」事業に採択された「金沢の森育推進事業」の一環として取り組んだ。

昨今、石川県内でもクマやイノシシ、シカなどの野生動物の出没が増え、農作物被害が多くなる一方、森林の役割や木材利用への関心が高まっている。このような背景をもとに、金沢市の支援を受け、金沢21世紀美術館で開催された「木育キャラバン」（全国各地で日本の文化、子どもの創造性を刺激する遊び場を展開し、国産広葉樹を使った遊びを通じて、森林保全・地方活性化につなげる活動）において、親子や一般来場者に向けた「人と森と野生動物との関わり」について、絵本を通して伝えることにした。

本文と全体監修は石川県立大学環境科学科 大井徹教授が行い、本学社会連携センターにて綿密な打ち合わせを繰り返しながら、本文とイラストを整合性がとれた状態に仕上げた。当初は絵本のパネル展示を主体に進んでいたが、より多くの人に知ってもらうため、500部の出版物として価値を高めた。また、「木育キャラバン」の展示にも協力した。（来場者数約3500人）



イラストの修正過程



ヤマメのイラスト

**[開発日程]**

2016年

12月8日 オリエンテーション

2017年

1月20日 本文とイラストの打ち合わせ

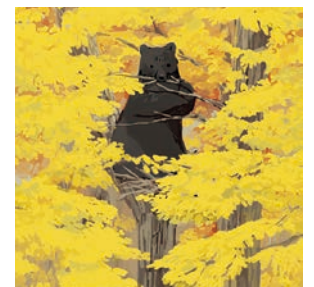
2月2日 印刷方法など打ち合わせ

2月23日 納品、マスコミ取材

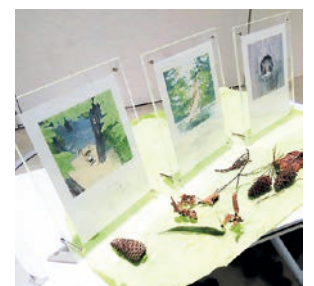
2月24日 展示設営

2月25日—26日

木育キャラバン  
（金沢21世紀美術館）



ツキノワグマのイラスト



金沢21世紀美術館での展示

# 095

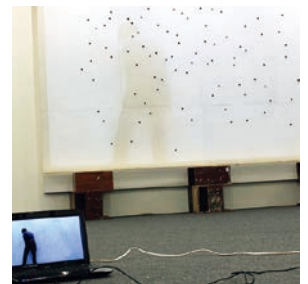
アートベース石引は、石引商店街の書店跡に金沢美術工芸大学のオルタナティブスペースとして2011年8月にオープンして以降、1年を通じて展覧会や講演、ワークショップ、授業の教室として活用されている。

学生にとって自身の取り組みを社会に示す最初の場所として機能していると共に、商店街にとっては町の美術館として、地域の特徴づくりに貢献している。そのすべての企画は、地域に向けて公開する事を前提としており、単に大学のスペースの延長ではなく、学生目線で地域コミュニティの形成にどうかかわっていけるかについての前線基地であると言える。

## アートベース石引における展示活動



授業「ファッション仕器」



油画公開制作



展覧会「天文展」

【委託者】

金沢美術工芸大学 アートベース石引

【期間】

2016年4月13日 - 2017年1月29日

【研究体制】

プロジェクト型

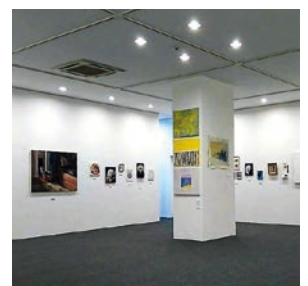
【担当教員】

- 松崎 十朗 教授 美術科日本画専攻
- 真鍋 淳朗 教授 美術科油画専攻
- 大森 啓 教授 美術科油画専攻
- 岩崎 純 准教授 美術科油画専攻
- 石田 陽介 教授 美術科彫刻専攻
- 工藤 俊之 教授 デザイン科視覚デザイン専攻
- 寺井 剛敏 教授 デザイン科視覚デザイン専攻
- 坂野 徹 准教授 デザイン科視覚デザイン専攻
- 北村 賢哉 准教授 デザイン科視覚デザイン専攻
- 池田 晶一 准教授 工芸科
- 村山 祐子 准教授 大学院デザイン科  
ファッションデザインコース

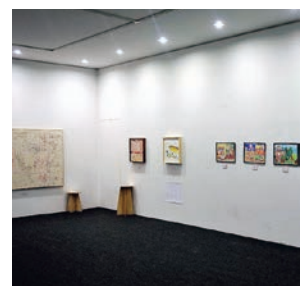
【展示日程】

- 2016年4月13日 - 4月17日  
展覧会「クソメス展」  
石川 莉夏子 視覚デザイン専攻2年 他
- 2016年4月19日 - 5月1日  
展覧会「紅白油画合展」  
角田 優美 油画専攻2年 他
- 2016年5月3日 - 5月8日  
展覧会「はるめろ展」  
岸 洸実 工芸科2年 他
- 2016年5月17日  
ワークショップ「forgettable  
believable(2)ドクメンタ勉強会」  
土方 大 助手 視覚デザイン専攻
- 2016年6月6日 - 6月10日  
サークル展示「グラ展」  
高橋 彰紀 視覚デザイン専攻3年 他
- 2016年6月13日 - 6月17日  
展覧会「鴨川雁治郎展」  
芦田 佳子 視覚デザイン専攻3年 他
- 2016年6月20日 - 6月26日  
展覧会「まんなか展」  
浦崎 愛衣美 環境デザイン専攻3年 他
- 2016年7月25日 - 8月10日  
展覧会「ダンボールエコアート展」  
工藤 俊之 教授 視覚デザイン専攻
- 2016年8月25日 - 8月28日  
油画公開制作  
山岸 耕輔 油画専攻3年

- 2016年10月1日 - 10月10日  
展覧会「彫刻専攻展」  
石田 陽介 教授 彫刻専攻
- 2016年11月1日 - 11月6日  
展覧会「切り捨てると20歳展」  
中桐 聡美 油画専攻3年 他
- 2016年11月8日 - 11月13日  
展覧会「天文展」  
森口 真美子 油画専攻2年 他
- 2016年11月23日 - 11月27日  
展覧会「Zine Project 2016」  
坂野 徹 准教授 視覚デザイン専攻
- 2016年12月5日 - 12月17日  
展覧会「walking on the edge展」  
竹内 佑未 博士後期課程  
美術工芸専攻油画コース1年
- 2016年12月19日 - 2017年1月6日  
授業「ファッション仕器」  
北村 賢哉 准教授 環境デザイン専攻  
村山 祐子 准教授 大学院デザイン科  
ファッションデザインコース
- 2017年1月21日 - 1月29日  
展覧会「二人展 霜月展・芽吹」  
河合 孝紀 日本画専攻2年



展覧会「紅白油画合展」



展覧会「切り捨てると20歳展」



# 087 >> 097

|     |  |    |
|-----|--|----|
| 087 | 金沢アートガイドアプリの企画・制作  | 24 |
| 088 | スマートデバイスを活用した新しいサービスの開発<br>新感覚サイネージ 「ルクホ ～ 囲んで見つけるマップ～」<br>位置情報連動型アプリ 「ワザトレ～ 冒険心をくすぐる修行アプリ～」 | 25 |
| 089 | サブライズのある容器   | 26 |
| 090 | 兼六園グッズのデザイン研究  | 27 |
| 091 | 新しい価値を持ったメガネのデザイン  | 28 |
| 092 | IoT 機器の操作インターフェイスデザインの研究   | 29 |
| 093 | OLED パネルの特徴を活かした未来の光の研究  | 30 |
| 094 | これからの暮らしとエクステリア空間  | 31 |
| 095 | 金沢フォーラス<br>クリスマスツリーデザインプロジェクト  | 32 |
| 096 | IoT 時代における UX (user experience) を基軸とした<br>サービス&プロダクトデザイン開発プロジェクト                             | 33 |
| 097 | 志賀町イルミネーション事業における提言  | 34 |

## 087

デジタル雑誌アプリ「kanavi (カナビ)」は、金沢美術工芸大学とDNPコミュニケーションデザイン(旧DNPメディアクリエイト)が連携して進めるプロジェクトである。2013年5月にデジタル雑誌の共同研究を開始、美大生ならではの「目利きの視点」で金沢を中心とする地域の魅力を取材し、スマートフォンやタブレット端末での購読に最適なコンテンツとして発信した。

最新号では、従来取り上げていたアート・工芸を、その地方ならではの「おもてなし」の一部として捉え直す試みをした。

## 金沢アートガイドアプリの企画・制作



作家 戸出雅彦さんへの取材



作家 上出恵悟さんへの取材

## 【委託者】

株式会社 DNP コミュニケーションデザイン  
(旧 株式会社 DNP メディアクリエイト)

## 【期間】

2015年7月1日 - 2016年10月11日

## 【研究体制】

プロジェクト型

## 【担当教員】

畝野 裕司 教授(統括)  
デザイン科環境デザイン専攻  
水野 さや 准教授 美術科芸術学専攻

## 【参加学生】

佐藤 優子 環境デザイン専攻 2年  
高井 良未波 環境デザイン専攻 2年  
平川 美帆 環境デザイン専攻 2年  
松江 李穂 芸術学専攻 2年  
瀧本 亜矢 環境デザイン専攻 1年  
宮本 夏帆 環境デザイン専攻 1年

## 【開発日程】

## 2015年

7月2日 オリエンテーション  
8月30日 作家 戸出雅彦さん 取材  
8月30日 第一回企画編集会議  
8月31日 作家 上出恵悟さん 取材  
11月4日 第二回企画編集会議  
12月22日 第三回企画編集会議

## 2016年

2月10日 第一回  
取材・編集・デザイン  
4月18日 完成アプリケーション  
意見交換  
8月2日 第二回  
取材・編集・デザイン  
10月26日 完成アプリケーション  
意見交換



完成アプリケーションの意見交換



## 088

## スマートデバイスを活用した新しいサービスの開発 新感覚サイネージ 「ルクホ ～ 囲んで見つけるマップ～」 位置情報連動型アプリ 「ワザトレ ～ 冒険心をくすぐる修行アプリ～」



「ルクホ」



「ワザトレ」



「ルクホ」 実物大模型での実験

## 【委託者】

株式会社 DNP コミュニケーションデザイン  
(旧 株式会社 DNP デジタルコム)

## 【期間】

2015年10月 - 2016年9月

## 【研究体制】

プロジェクト型

## 【担当教員】

寺井 剛敏 教授 デザイン科視覚デザイン専攻  
安島 諭 教授 デザイン科製品デザイン専攻

## 【参加学生】

江野畑 陽子 視覚デザイン専攻3年  
古舘 一步 視覚デザイン専攻3年  
向 幸菜 視覚デザイン専攻3年  
大河内 悠 製品デザイン専攻3年  
平井 七海 製品デザイン専攻3年  
本山 貴大 製品デザイン専攻3年

スマートデバイスを活用したサービス開発を通じて PBL (Project Based Learning) による若手社員教育の意味合いを備えたプロジェクトである。

DNP デジタルコムのソフトウェアの開発技術力と金沢美大のクリエイティブ力を合わせ、人々のニーズの掘り起こしとコミュニケーションの活発化の触媒となるサービスの開発を目指し、産学混成の2チームによって提案を行った。

## ルクホ ～ 囲んで見つけるマップ～

設置場所周辺の地域情報に特化したお勧めスポット検索・紹介サイネージ。目的地から、行き先を逆引きできる、新感覚サイネージ。

## ワザトレ ～ 冒険心をくすぐる修行アプリ～

旅人であるユーザーが日本各地に散らばるあらゆる特性の仙人から“必殺技”を習得していく、位置情報連動型の修行アプリ。

## 【開発日程】

## 2015年

10月9日 キックオフミーティング  
12月22日 前期中間報告会

## 2016年

2月26日 合同ミーティング・ワークショップ  
3月29日 前期報告会  
4月22日 合同ミーティング・ワークショップ  
6月6日 後期中間報告会  
7月22日 合同ミーティング・ワークショップ  
9月9日 TRAVEL × IT CONTEST ファイナリストプレゼンテーション  
9月29日 活動報告会



「ワザトレ」画面デザイン



ピッチ大会 (中間報告会)

## 089

## サプライズのある容器



「オンザロック」、「湖底の旅」の試作モデル

## 【委託者】

馬場化学工業株式会社

## 【期間】

2015年8月1日—2017年3月31日

## 【研究体制】

## プロジェクト型

## 【担当教員】

坂野 徹 准教授 (統括)  
デザイン科視覚デザイン専攻

畝野 裕司 教授 デザイン科環境デザイン専攻

## 【参加学生】

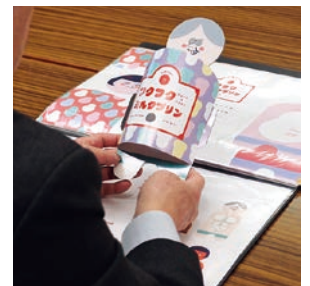
芦田 佳子 視覚デザイン専攻2年  
 厚見 桃香 視覚デザイン専攻2年  
 小浜 晶子 視覚デザイン専攻2年  
 小林 優希 視覚デザイン専攻2年  
 柴田 竜 視覚デザイン専攻2年  
 島田 彩 視覚デザイン専攻2年  
 名越 菜由花 視覚デザイン専攻2年  
 花木 大樹 視覚デザイン専攻2年  
 松波 里菜 視覚デザイン専攻2年

本プロジェクトは「真空成形の技術を使い新しいパッケージの提案を通じて既存の商品にはない『明確な特徴と価値』を創造すること」を目的とする。

一昨年、本学のオープンキャンパスで量産品を制作、配布をおこなったことは、4年間の試みを通じても大きな前進であり、この試みを通じて多くのノウハウが蓄積された。今期は明確なお披露目の場は設定しないが、「サプライズのある容器」をテーマに、販売店、卸問屋、金沢観光PRなどあらゆる方面に展開できるツールとして、量産も視野にいたれた精度の高いモデルの制作を目指した。今年度の参加メンバーは9名、中間発表を経て、柴田竜、松波里菜の2案が選ばれた。



粘土などでデザインを立体に起こしながら、試行錯誤をおこなう。



中間発表の様子。選ばれなかった作品の中にもたくさんのおもしろいアイデアがあった。

## 【開発日程】

## 2015年

11月16日 オリエンテーション  
 12月 リサーチ(金沢駅、大和、エムザ、福光屋など)

## 2016年

2月29日 中間発表  
 4月 モデル制作  
 6月12日 パッケージ検討会  
 10月 パッケージ検討

## 2017年

1月 モデル再考  
 3月 お披露目



中間発表で選ばれた2名のアイデアを実現するために具体的なモデル検討をおこなう。



モデル制作と平行して外装パッケージの印刷方法、紙材検討、箱の設計などを進める。

## 090

兼六園観光協会より依頼を受け、兼六園内の茶店で販売するオリジナルグッズの制作を行なった。オリジナルグッズを制作するにあたり、兼六園観光協会の方向性を明確にするという事で全茶店のリサーチ・ヒアリング等を行ない、最初にロゴマークを提案。

このロゴマークが決定した後、それを軸にトートバッグや手ぬぐい、菓子詰合せ「ろく」の提案を行なった。兼六園開園記念日である5月7日に発表を行なう。

## 兼六園グッズのデザイン研究



菓子「ろく」のパッケージデザイン



ロゴマークのカラーバリエーション（春と夏）



トートバッグのデザイン案

|                      |                           |
|----------------------|---------------------------|
| 【委託者】                |                           |
| 協同組合 兼六園観光協会         |                           |
| 【期間】                 |                           |
| 2016年1月4日—2017年3月31日 |                           |
| 【研究体制】               |                           |
| プロジェクト型              |                           |
| 【担当教員】               |                           |
| 村山 祐子 准教授            | 大学院デザイン科<br>ファッションデザインコース |
| 平塚 聖子 准教授            | 大学院デザイン科<br>ファッションデザインコース |
| 【参加学生】               |                           |
| 古山 千穂                | 環境デザイン専攻 2年               |
| 新井 麻帆子               | 環境デザイン専攻 3年               |
| 浦崎 愛美                | 環境デザイン専攻 3年               |
| 塚本 友理                | 環境デザイン専攻 4年               |
| 黄 懿                  | 大学院修士課程<br>デザイン専攻 2年      |

|        |     |  |  |
|--------|-----|--|--|
| 【開発日程】 |     | 12月  | CIマニュアル完成<br>トートバッグ、手ぬぐいのデザイン案決定<br>菓子箱「ろく」デザイン案決定 |
| 2015年  |     | 12月  | 初回打ち合わせ  |
| 2016年  |     | 1月   | 参加希望者が各自で兼六園視察、ヒアリング<br>初回アイデア提出                   |
|        | 2月  | 兼六園観光協会によるアイデア選定   |  |
|        | 2月  | ロゴマークデザインのため再度現地調査   |  |
|        | 3月  | ロゴマークのアンケート調査、打ち合わせ<br>菓子メーカーのリサーチ                                     |  |
|        | 4月  | ロゴマーク調整  |  |
|        | 5月  | 菓子箱「ろく」の容量や箱代等の打ち合わせ   |  |
|        | 7月  | 打ち合わせ  |  |
|        | 8月  | 全茶店、店舗から再度確認、聞き取り調査  |  |
|        | 9月  | 兼六園ロゴマーク最終案を決定   |  |
|        | 10月 | 菓子箱「ろく」の箱の形状を決定  |  |
|        | 11月 | 兼六園ロゴマークのマニュアル制作開始<br>トートバッグ、手ぬぐいのメーカー選定                               |  |
|        | 12月 | CIマニュアル完成<br>トートバッグ、手ぬぐいのデザイン案決定<br>菓子箱「ろく」デザイン案決定<br>箱メーカーによるサンプル試作開始 |  |
| 2017年  |     | 1月   | 菓子箱「ろく」箱サンプル検討<br>トートバッグ、手ぬぐい試作開始                  |
|        | 5月  | 兼六園にて商品お披露目・完成セレモニー  |  |



手拭いのデザイン案



CIデザインマニュアル

## 091

## 新しい価値を持ったメガネのデザイン



IOFT 展示パネル

## 【委託者】

一般社団法人 福井県眼鏡協会

## 【期間】

2016年5月—2017年3月

## 【研究体制】

## プロジェクト型

## 【担当教員】

浅野 隆 教授 デザイン科製品デザイン専攻

## 【参加学生】

## メガネ部部长

飯島 泰昭 製品デザイン専攻3年

## 副部长

長谷川 尚実 製品デザイン専攻3年

## Aチーム

リーダー 飯島 泰昭 製品デザイン専攻3年

メンバー 清水 翔太 製品デザイン専攻3年

津野 茜 製品デザイン専攻3年

島 夏海 製品デザイン専攻2年

濱野 青空 製品デザイン専攻1年

山口 未森 製品デザイン専攻1年

宮島 望 製品デザイン専攻1年

## Bチーム

リーダー 山本 茉優子 製品デザイン専攻3年

メンバー 保井 康祐 製品デザイン専攻3年

吉戸 沙織 製品デザイン専攻2年

大石 まなみ 製品デザイン専攻2年

藤島 佳奈子 製品デザイン専攻1年  
竹本 頌悟 製品デザイン専攻1年  
サポート 合田 貴子 製品デザイン専攻4年

## Cチーム

リーダー 山本 貴太郎 製品デザイン専攻3年

メンバー 平井 七海 製品デザイン専攻3年

森 琴音 製品デザイン専攻2年

坂上 立朗 製品デザイン専攻1年

高田 えみ 製品デザイン専攻1年

番匠 香純 製品デザイン専攻1年

サポート 松本 優子 製品デザイン専攻4年

## Dチーム

リーダー 長谷川 尚実 製品デザイン専攻3年

越智 梓 製品デザイン専攻3年

西村 正之 製品デザイン専攻2年

松本 姫佳 製品デザイン専攻1年

川村 美月 製品デザイン専攻1年

乙部 那未 製品デザイン専攻1年

サポート 桑原 孝史 製品デザイン専攻4年

## Eチーム

リーダー 浅見 日向子 製品デザイン専攻3年

メンバー 東本 誠 製品デザイン専攻3年

渡邊 奈々重 製品デザイン専攻3年

内海 春佳 製品デザイン専攻2年

松村 圭介 製品デザイン専攻2年

山本 恵 製品デザイン専攻1年

細川 岳 製品デザイン専攻1年

サポート 武井 亮子 製品デザイン専攻4年

福井県眼鏡協会との産学連携は今年で16年目。ここまで続けてこられたのは、他大学では類を見ない学生主体の「メガネ部」部活動としての受け入れ体制にある。情報の引継ぎによりノウハウの蓄積があり、上級生から下級生への専門的なデザイン技術指導もしっかり整えられており、年々研究が深まっている。さらなる努力を重ね、産地活性化に繋がるようレベルアップを計りたい。

本年度はテーマを「SURPRISE 驚きのあるメガネ」と定め、メガネを手取る人に、唯一無二の驚きを与え、使いたくなる、注目してもらえるメガネを目指しアイデアを練っていった。最終的に5チーム36名が取り組み、28案を提案した。アイデアはどれも斬新で新しい技術や機能を取り入れた先進的な未来を予測させる提案となった。

さらに、今後はより現実的な商品化に向けたデザイン開発を行っているよう産地と情報交換を重ね、形あるものとしての実績を増やしていきたい。



メガネメッセ、メガネフェス視察



オリエンテーション

## 【開発日程】

## 2016年

5月28日 サバエメガネメッセ2016  
視察6月14日 オリエンテーション  
テーマコンセプト発表

6月30日 学内中間発表、チーム分け

8月9日 工場見学  
デザイナーとの意見交換

9月20日 最終プレゼンテーション

10月3日—5日

IOFT展示、視察

11月3日—5日

美大祭展示



デザイナーとの意見交換



最終プレゼンテーション

## 092

あらゆるものがネットワークで繋がる IoT (Internet of Things) の時代を迎えている。住空間における様々な機器を効果的にコントロールすることで快適な生活環境を保つことが可能となる。

ステップ1では様々なユーザーを想定してハードウェアのあり方をデザインした。ステップ2ではユーザーの行動や感情、価値観などを分析し、本質的なニーズを探ることにより、ネットワーク機器に不慣れなユーザーでも気軽に利用することができるインターフェイスをデザインした。

## IoT 機器の操作インターフェイスデザインの研究



ステップ1のオリエンテーション



ステップ2のオリエンテーション

## [委託者]

SMK 株式会社

## [期間]

2016年4月1日—2017年3月31日

## [研究体制]

プロジェクト型

## [担当教員]

村中 稔 教授 デザイン科製品デザイン専攻

## [参加学生]

池 有希 製品デザイン専攻4年  
 石田 晴希 製品デザイン専攻4年  
 一丸 真奈美 製品デザイン専攻4年  
 鶴川 由似 製品デザイン専攻4年  
 江原 次郎 製品デザイン専攻4年  
 大石 由貴 製品デザイン専攻4年  
 加藤 美咲 製品デザイン専攻4年  
 北出 琢朗 製品デザイン専攻4年  
 楠原 領基 製品デザイン専攻4年  
 黒澤 秀 製品デザイン専攻4年  
 桑原 孝史 製品デザイン専攻4年  
 合田 貴子 製品デザイン専攻4年  
 正入木 雄哉 製品デザイン専攻4年  
 白木 伸 製品デザイン専攻4年  
 武井 亮子 製品デザイン専攻4年  
 當房 愛美 製品デザイン専攻4年  
 馬場 菜摘 製品デザイン専攻4年  
 松本 優子 製品デザイン専攻4年  
 溝越 万莉 製品デザイン専攻4年  
 師 直樹 製品デザイン専攻4年  
 山崎 嵩弘 製品デザイン専攻4年  
 山崎 文菜 製品デザイン専攻4年

## [開発日程]

2016年

6月8日 ステップ1  
オリエンテーション  
 6月24日 成果発表  
 9月30日 ステップ2  
オリエンテーション  
 10月1日— 調査開始  
 12月22日 ウェブ会議  
 12月26日—  
コンセプト、デザイン検討

2017年

2月2日 調査・コンセプト発表  
 2月3日— プロトタイプ作成  
 2月10日 ワイヤーフレーム検討  
 2月17日 ワイヤーフレーム検討  
 2月27日 モックアップ検討  
 3月5日 最終モックアップ提案  
 3月6日— モックアップ改良



ワイヤーフレーム検討



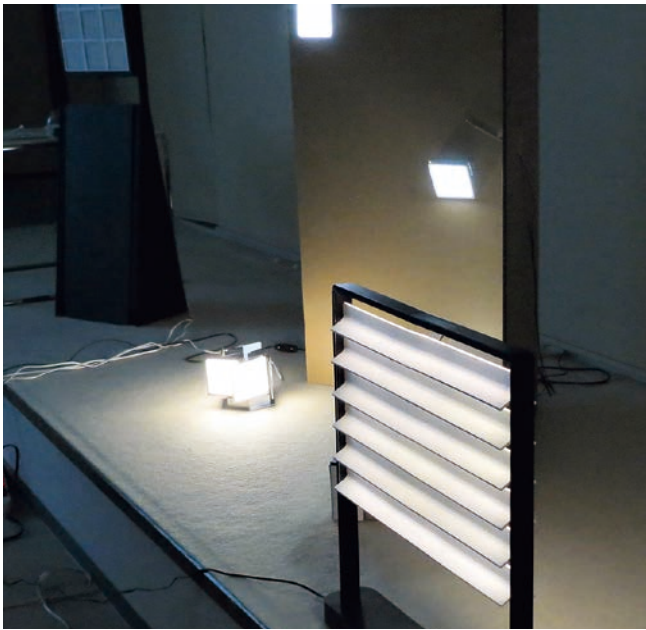
画面遷移の検討

## 093

## OLED パネルの特徴を活かした未来の光の研究

OLED (有機発光ダイオード) パネルから発想する、人を取り巻く光のデザインの研究コンセプト開発を委託され、約 8 ヶ月の研究、試作、制作に取り組んだ。すでに様々な実験や試作、完成品が提案されている中で、これまでの素材や形状デザインにとどまらない「未来の光のありかたをデザイン」する目的でディスカッションを重ねた。

その上で方向性を幾つか定めて参加学生よりラフ案の提示を繰り返し、全体として 100 数十案に絞った上で 12 項目のキーワードに取りまとめた。これらの方針に従い、可能性のある約 30 案について、さらに改良を加えて委託者と協議および社内での評価を実施した。最終的には 7 つの分野で、8 デザイン提案することを合意して、最終モデルの制作とプレゼンテーションを実施した。委託者には実際の OLED パネルを個別設計して提供していただき、リアルな光の影響や機能を実験・体感することを可能とし、大きな成果を得ることができた。



最終プレゼンテーション



アイデア展開とディスカッション



アイデア評価と取りまとめ

## [委託者]

株式会社カネカ

## [期間]

2016年5月1日—2016年10月31日

## [研究体制]

プロジェクト型

## [担当教員]

角谷 修 教授 デザイン科環境デザイン専攻

根来 貴成 准教授 デザイン科製品デザイン専攻

## [参加学生]

馬場 菜摘 製品デザイン専攻 4年

松浦 克彦 製品デザイン専攻 3年

山本 貫太郎 製品デザイン専攻 3年

高村 恵花 製品デザイン専攻 3年

中内 萌木 環境デザイン専攻 4年

鈴木 駿太 環境デザイン専攻 3年

稲手 広子 環境デザイン専攻 2年

## [開発日程]

2016年

5月 オリエンテーション  
概要および OLED の説明と  
研究テーマについて6月-7月 アイデア展開とディスカ  
ッションによるプランの絞り  
込み100 案以上のアイデアを  
12 項目のキーワードに振り  
分けてブラッシュアップ8月-9月 プランの精査と評価  
絞り込んだプランの取りま  
とめとカネカによる社内評  
価とヒヤリング10月-11月 デザインの設計とモデルの  
試作  
具体的なデザインの設計お  
よび OLED パネルとの融合  
と実験11月-12月 最終調整と  
プレゼンテーション  
カネカ担当者とのモデルに  
よる確認と  
最終プレゼンテーションの  
準備と実施

最終提案確認とプレゼンテーション準備



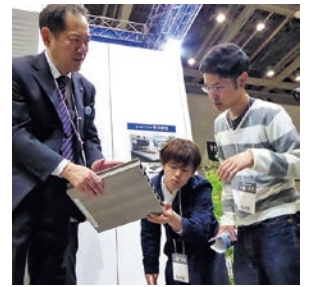
最終プレゼンテーション

## 094

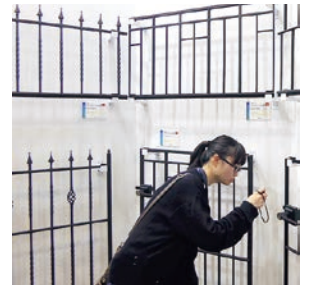
少し先のライフスタイルやテクノロジーを研究し、これからの住宅エクステリアの在り方について提案した。環境デザイン専攻では「人」と「空間」の関係性を軸にプロダクトから建築まで幅広い領域をデザインしている。今回の提案では自律走行による自動駐車が可能になった時代の庭とガレージの在り方や、今より豊かなガーデンライフを楽しむための提案、ライフステージの変化に寄り添うエクステリアなど、学生にとってリアルな未来を見据えた自由な発想が多数生まれた。

デザインプロセスにおいては、クライアントが大学から車で一時間程度という近隣のメリットを活かし、工場見学やプロデザイナーからの複数回アドバイスを受けることが精度アップにつながった。

## これからの暮らしとエクステリア空間



東京で展示会を視察



商品調査を行う

## 【委託者】

三協立山株式会社 三協アルミ社

## 【期間】

2016年4月4日—2017年11月30日

## 【研究体制】

プロジェクト型

## 【担当教員】

北村 賢哉 准教授 デザイン科環境デザイン専攻  
 鏑 隆弘 教授 アドバイザー  
 デザイン科環境デザイン専攻

## 【参加学生】

青柳 菜子 環境デザイン専攻3年  
 城寶 俊亮 環境デザイン専攻3年  
 高村 美緒 環境デザイン専攻3年  
 西川 啓 環境デザイン専攻3年  
 陸浦 可楠 環境デザイン専攻3年

## 【開発日程】

2016年

4月23日 エクステリアエキシビジョン  
 2016見学  
 5月11日 キックオフミーティング  
 射水工場見学  
 6月29日 中間報告会1  
 コンzept決定  
 8月24日 中間報告会2  
 デザイン方向決定  
 9月20日 中間報告会3  
 デザイン案決定  
 10月18日 学内最終報告会  
 11月17日 高岡本社にて最終報告会



射水市の工場を見学



高岡市の本社で最終プレゼンテーション

## 095

金沢フォーラス  
クリスマスツリーデザインプロジェクト

## 【委託者】

株式会社OPA 金沢フォーラス  
ヨシダ宣伝株式会社

## 【期間】

2016年7月1日—12月31日

## 【研究体制】

プロジェクト型

## 【担当教員】

後藤 徹 教授 デザイン科視覚デザイン専攻

## 【参加学生】

市川 明穂 視覚デザイン専攻2年  
米谷 咲月 視覚デザイン専攻2年  
佐藤 文香 視覚デザイン専攻2年  
中村 直人 視覚デザイン専攻2年  
野見山 修平 視覚デザイン専攻2年  
藤井 涼 視覚デザイン専攻2年  
吉田 昇 視覚デザイン専攻2年

金沢フォーラス10周年を記念して、顧客にその輝きをアピールし、夢を与えることを目的に、大型クリスマスツリーをファサードに設置する。

そのデザインを、若い感性溢れる金沢美大の学生に提案してほしいという依頼を受け、視覚デザイン2年生を中心に、7人のプロジェクトメンバーを編成し、3回にわたるプレゼンテーションを行い、最終的に、野見山君の「FORUS MIRROR CHRISTMAS TREE」案に決定。ヨシダ宣伝と共同で、具体的デザインを開発し、11月2日にクリスマスツリー点灯式を開催した。

フォーラス10周年という特別な年に、見た人の心に残るスペシャルなツリーを作りたい! そんなワクワクする気持ちを形にしたのが、FORUS MIRROR CHRISTMAS です。ファッションには欠かせない鏡をモチーフに、そこに映る人たちの笑顔がキラキラと輝き、パワーを放つ! そのイメージを多面体の鏡を使うことで、光がより遠くまで発することができると思いました。そのクリスマスツリー発信基地の金沢フォーラスから、笑顔の光を金沢中に、いや世界中に輝きを届けます。



プレゼンテーションプラン1



プレゼンテーションプラン2

## 【開発日程】

2016年

6月23日 オリエンテーション  
7月13日 プレゼンテーション1  
7月25日 プレゼンテーション2  
8月 デザイン決定  
9月—11月 クリスマスツリー制作作業  
11月2日 クリスマスツリー点灯式  
12月 金沢フォーラス  
クリスマスキャンペーン



作業風景



点灯式

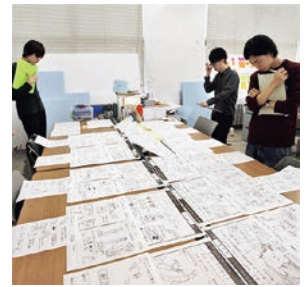
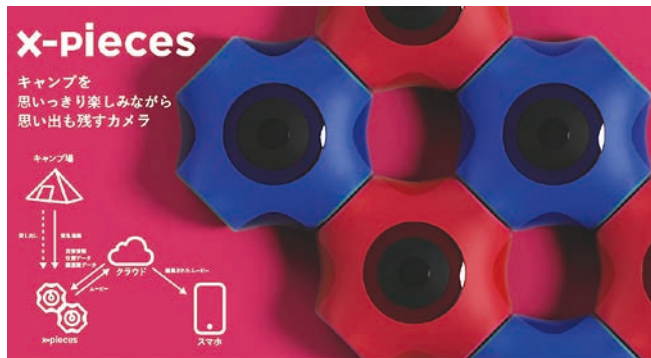


# 096

スマートフォンやPCなどのコンシューマー製品から業務向け製品まで商品価値の源泉となる、直近に向けてのアイデアとIoTを軸としたサービス、プロダクトを包括した新規市場向けのアイデア、双方を視野に入れた幅広い研究開発である。

アウトドアをテーマにUXの観点から新しい価値の創出を念頭に置き、調査や試作、アイデア展開、現場での検証やシミュレーションなどのプロセスを積み上げてまとめた。あらゆるものがインターネットに接続することによって実現する新たなサービスやビジネスモデル、プロダクトデザインの提案である。

## IoT 時代における UX (user experience) を基軸とした サービス&プロダクトデザイン開発プロジェクト



デザイン検討



ワークショップ

**[委託者]**

富士通デザイン株式会社

**[期間]**

2016年10月11日 - 2017年2月28日

**[研究体制]**

プロジェクト型

**[担当教員]**

村中 稔 教授 デザイン科製品デザイン専攻

**[参加学生]**

- 浅見 日向子 製品デザイン専攻 3年
- 飯島 泰昭 製品デザイン専攻 3年
- 大河内 悠 製品デザイン専攻 3年
- 越智 梓 製品デザイン専攻 3年
- 小宮山 拓末 製品デザイン専攻 3年
- 清水 翔太 製品デザイン専攻 3年
- 高村 恵花 製品デザイン専攻 3年
- 津野 茜 製品デザイン専攻 3年
- 時岡 翔太郎 製品デザイン専攻 3年
- 長谷川 尚実 製品デザイン専攻 3年
- 東元 誠 製品デザイン専攻 3年
- 平井 七海 製品デザイン専攻 3年
- 松浦 克彦 製品デザイン専攻 3年
- 本山 貴大 製品デザイン専攻 3年
- 山田 竜也 製品デザイン専攻 3年
- 山本 貴太郎 製品デザイン専攻 3年
- 山本 茉優子 製品デザイン専攻 3年
- 渡邊 奈々重 製品デザイン専攻 3年
- 保井 康佑 製品デザイン専攻 3年

**[開発日程]**

2016年

- 10月12日 オリエンテーション
- 10月13日 ワークショップ
- 10月14日 - 調査、デザイン検討

- 11月11日 中間発表
- 11月14日 -

- コンセプト、シナリオブラッシュアップ

- 12月19日 最終発表

2017年

- 2月28日 報告書完成



中間発表



最終発表

## 097

政府の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づいた、「志賀町の観光資源を活用した新たなイベントの企画実施事業」において、同町にある増穂浦海岸の「世界一長いベンチ」付近に、LEDを内蔵したイルミネーションを設置するにあたり、若者、学生、女子、町内外の人などの視点による調査、意見交換、評価を行い、次年度の事業へとつなげるための提言を行った。

## 志賀町イルミネーション事業における提言



## [委託者]

株式会社 地域力活性化研究室

## [期間]

2016年7月1日 - 12月25日

## [研究体制]

プロジェクト型

## [担当教員]

工藤 俊之 教授 デザイン科視覚デザイン専攻

## [参加学生]

石川 莉夏子 視覚デザイン2年  
 小野寺 澤 視覚デザイン2年  
 笠原 淳史 視覚デザイン2年  
 米谷 咲月 視覚デザイン2年  
 山腰 彩夏 視覚デザイン2年

## [開発日程]

2016年

- 6月22日 社会連携センターと地域力活性化研究室による会議
- 6月28日 志賀町のロケハンを要請、学生5名募集開始
- 7月8日 オリエンテーションとロケハンについての打ち合わせ
- 7月29日 志賀町賑わい創出委員会との打ち合わせ  
世界一長いベンチでロケハン  
志賀町賑わい創出委員会と地元の方々との意見交換会  
夜間のベンチでのロケハン
- 7月30日 志賀町町内、志賀原発、植物資料館  
気多大社、内灘恋人の聖地視察
- 8月1日 ビデオレター作成送付
- 8月3日 志賀町にVTR提出
- 10月1日 「西能登 里浜イルミネーション 桜貝庵」開会式参加  
視察、意見交換会
- 12月25日 設置期間終了



# A01 ➡➡ G01

|     |  |    |
|-----|--|----|
| A01 | 北陸銀行 ウィンドウおよび店舗 作品展示   | 36 |
| B01 | 問屋まちスタジオにおける活動<br>問×美 2016 新しい問屋まちスタジオと工芸建築を考える                              | 37 |
| C01 | 東京デザインウィーク 2016 出展事業<br>マッチングハブ金沢 2016 出展事業                                  | 38 |
| D01 | 日本文化研修プログラム<br>DEAi - Kanazawa Summer 2016<br>第10回交流シンポジウム<br>能登地域で活躍する研究者たち | 39 |
| E01 | 地元企業との就職情報交換会  | 40 |
| F01 | 奥能登国際芸術祭準備事業   | 41 |
| G01 | 志賀町・絵画塾 —美術教育による地域連携—  | 42 |

# A01

本学と北陸銀行は平成22年6月に連携協定を締結し、若手作家の育成等を目的に支店の一部をギャラリーとして活用している。

連携協定にもとづく展示は、小立野支店、金沢中央支店、もりの里支店などのウィンドウや店舗内を活用し、学生が各支店の展示環境等を活かした美術作品の企画・提案を行っており、まちのミニ美術館として地元の商店街や住民の方々に定着し親しまれている。

## 北陸銀行 ウィンドウおよび店舗 作品展示



個展「土の中、把手のある」 木谷 洋



店内展示「モノクロ4ch」 油画 4年有志



個展「愛すべき異端者たち」 高橋 直宏

【委託者】

株式会社北陸銀行

【期間】

2016年5月～2017年5月

【研究体制】

プロジェクト型

【担当教員】

石田 陽介 教授 美術科彫刻専攻

山本 健史 教授 工芸科

【参加学生】

大出 久美子 油画専攻4年

齊藤 光平 油画専攻4年

佐藤 隆 油画専攻4年

谷本 梢 油画専攻4年

高橋 直宏 大学院修士課程彫刻専攻2年

仲 駿輔 大学院修士課程彫刻専攻1年

尾崎 太亮 大学院修士課程彫刻専攻1年

木谷 洋 大学院博士後期課程工芸専攻金工分野2年

【展示日程】

2016年～2017年

油画4年有志

5月18日～6月17日

小立野支店

高橋 6月1日～7月31日

小立野支店

仲 7月26日～8月31日

小立野支店

尾崎 9月13日～12月12日

小立野支店

木谷 12月13日～5月中旬

小立野支店



個展「明日をみすえるために」 仲 駿輔



個展「バス停の前の物」 尾崎 太亮

# B01

## 問屋まちスタジオにおける活動 問×美 2016 新しい問屋まちスタジオと工芸建築を考える



【委託者】  
問屋まちアートファクトリープロジェクト  
実行委員会

【会期】  
2017年1月8日—1月15日  
問屋まちスタジオ

【研究体制】  
プロジェクト型

【担当教員】  
坂本 英之 教授 デザイン科環境デザイン専攻  
真鍋 淳朗 教授 美術科油画専攻  
中瀬 康志 教授 美術家彫刻専攻

【参加学生】  
鈴木 駿太 環境デザイン専攻3年  
西川 啓 環境デザイン専攻3年

【協力】  
協同組合金沢問屋町センター  
NPO 法人 金沢アート Gummi

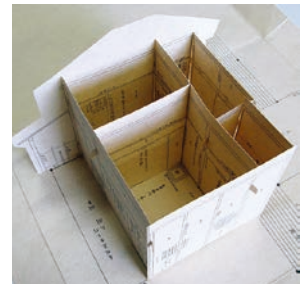
平成28年度(公財)いしかわ県民文化振興基金 文化創造普及事業

平成28年度 金沢美術工芸大学特別研究

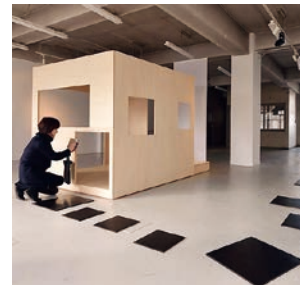
2010年5月に本学と協同組合金沢問屋町センターは「金沢市問屋町の街づくりに関する協定」を締結し、問屋まちスタジオを開設した。同スタジオは本学の卒業生、修了生の制作の場として活用され、現実の厳しい経済活動の中で社会体験を行い、プロのアーティストを育成する環境を創りだしている。

「問×美 2016」では、工芸建築としての茶室を取り上げた。茶室はコミュニケーションの場として、対話を生み出す装置であり、無限の広がりを持つ。異質なものが混じり合い、共鳴し合うときに「こと」が起きる。茶室をつくるという限りなく「もの」に近づく行為と、ファクトリーという活動体を問屋まちスタジオに実現させるという、限りなく「こと」に近づく行為が融合するきっかけの創出を試みた。

ここでは、スタジオに国宝茶室「待庵」の「起こし絵図」をもとにした原寸大の構造体を設置し、茶室の「間」や周辺に現れる「場」に、アート、工芸、デザイン、異質な素材や先端メディアの共鳴を持ち込み、新たな「間」と「場」の出会いによる、現代の茶室—工芸建築—を提案した。この提案を通じてアート、工芸、デザインと地域の企業、高等教育機関、研究機関との連携による新たな組織の創設を目標とした。



起こし絵図



【展示日程】  
2017年

1月8日 ふるまいカフェ + 軽食&ドリンク オープニングパーティー

1月9日 対話 西川 英治氏 (五井建築研究所 代表取締役)

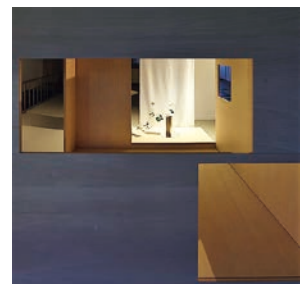
1月10日 対話 上町 達也氏 (secca inc. 代表取締役)

1月11日 対話 黒澤 伸氏 (湯涌創作の森 所長)

1月12日 対話 川本 敦久氏 (金沢卯辰山工芸工房 館長)

1月14日 対話 眞壁 陸二氏 (画家 / 現代美術家)

1月15日 劇団アングルスの上演 小泉八雲 = 作「貉」「雪女」 クロージングパーティー



# C01

## 東京デザインウィーク 2016 出展事業 マッチングハブ金沢 2016 出展事業

東京デザインウィーク出展事業において、製品デザイン専攻 3 年生の授業で行った「ヘアーセットの時間」をデザインすることから生まれた 8 つのヘアードライヤーを展示した。このモデル制作過程において、北陸先端科学技術大学院大学の永井由佳里研究室との連携を行い、石膏プリンターで出力したホワイトモデルを制作した。

この授業では、ヘアースーツに関わる体験全体の観察を行い、より快適なデザインの実現を目的とした。人が髪を洗って乾かす行為全体を見ると実に様々なコトを行っている。髪を乾かす前に扇風機で涼む、スマートフォンを操作する、化粧水を付ける、マニキュアを落とす、髪を乾かした後にマッサージする、お香を焚いてリラクセスするなど、これら一連の人の行為に寄り添うプロダクトの開発を行った。

北陸先端科学技術大学院大学、中小企業基盤整備機構北陸本部、産業技術総合研究所中部センターが主催する北陸発の産学官金連携マッチングイベント「マッチングハブ金沢 2016」の総合受付スペースにおいて、ファッションデザイン専攻の研究事例展示を行った。また、一般展示ブースにおいて社会連携センターの研究事例を展示した。出展約 270 社、団体。来場者約 1600 人。



東京デザインウィーク 2016 展示



マッチングハブ金沢 2016 展示

【委託者】

国立大学法人 北陸先端科学技術大学院大学

【期間】

東京デザインウィーク 2016  
明治神宮外苑絵画館前

2015 年 10 月 26 日 - 11 月 31 日

マッチングハブ金沢 2016  
ホテル日航金沢

2016 年 11 月 2 日

【研究体制】

プロジェクト型

【担当教員：東京デザインウィーク 2016 出展事業】

河崎 圭吾 教授 デザイン科製品デザイン専攻  
稲垣 健志 講師 一般教育等(英語・英国文学)

【参加学生：東京デザインウィーク 2016 出展事業】

越智 梓 製品デザイン専攻 3 年  
高村 恵花 製品デザイン専攻 3 年  
山田 竜也 製品デザイン専攻 3 年  
山本 貴太郎 製品デザイン専攻 3 年  
松浦 克彦 製品デザイン専攻 3 年  
浅見 日向子 製品デザイン専攻 3 年  
渡邊 奈々重 製品デザイン専攻 3 年  
本山 貴大 製品デザイン専攻 3 年

【担当教員：マッチングハブ金沢 2016 出展事業】

山崎 剛 教授 美術科芸術学専攻  
村山 祐子 准教授 大学院デザイン科  
ファッションデザインコース  
平塚 聖子 准教授 大学院デザイン科  
ファッションデザインコース

【参加学生：マッチングハブ金沢 2016 出展事業】

大田 香 大学院修士課程デザイン専攻  
ファッションデザインコース 2 年  
深谷 梨香 大学院修士課程デザイン専攻  
ファッションデザインコース 2 年  
松本 直大 大学院修士課程デザイン専攻  
ファッションデザインコース 2 年



東京デザインウィークでのプレゼンテーション



2014 年度産学連携事業  
兼六園ガイドフォーラムの展示

# D01

## 日本文化研修プログラム DEAi-Kanazawa Summer 2016 第10回交流シンポジウム 能登地域で活躍する研究者たち



DEAi-Kanazawa Summer 2016 日本画演習



DEAi-Kanazawa Summer 2016 工芸演習



DEAi-Kanazawa Summer 2016 受講生

### 日本文化研修プログラム DEAi-Kanazawa Summer 2016

【連携先】

国立大学法人 金沢大学

【期間】

2016年6月20日～7月8日

金沢大学

第1週 6月20日～6月23日

第2週 6月28日～7月2日

金沢美術工芸大学

第3週 7月4日～7月8日

【所管】

国際交流センター

【担当教員】

荒木 恵信 准教授 美術科日本画専攻  
神谷 佳男 教授 美術科芸術学専攻  
山崎 剛 教授 美術科芸術学専攻  
鏑 隆弘 教授 デザイン科環境デザイン専攻  
田中 信行 教授 工芸科漆・木工コース  
山本 健史 教授 工芸科陶磁コース  
原 智 教授 工芸科金工コース  
大高 亨 教授 工芸科染織コース  
稲垣 健志 講師 一般教育等(英語・英国文学)

【ティーチングアシスタント】

井上 知美 大学院修士課程工芸専攻2年  
今西 泰起 工芸科科目履修生  
大江 絵 工芸科3年  
広田 朋美 工芸科助手

【協力学生】

増田 瑛 日本画専攻3年  
佐藤 臨 油画専攻4年

【外国人受講生】

Sharitha Hendrika Catharina  
van der Gouw  
バンドルハウ シャリタ ライデン大学

Sandra Duba  
デッパ サンドラ ライデン大学

Kristin Charnaе Lindsay  
リンジー クリスティン エンハラ大学

Dorothy Rose Gepner  
ケブナー ドロシー ジョージア州立大学

【本学開講科目】

The Japanese Art History:  
Painting, Craft and Garden

日本美術史概説と作品鑑賞、日本庭園見  
学、文化財修復工房見学、漆芸工房見学

Through the Practical Work,  
Comprehension of Painting, Craft  
and Garden

日本画演習、工芸演習(陶磁・染織・金工)、  
環境デザイン演習

2016年度、本学と金沢大学は連携協定に基づき、二つ事業を共同で実施した。これらは国際交流や教育研究の一環として今後とも継続する予定である。

日本文化研修プログラム「DEAi-Kanazawa Summer 2016」は、海外の連携大学等の学生を対象とする外国人学生向けプログラムで、第1週と第2週を金沢大学、第3週を本学が担当した。本学では、「The Japanese Art History: Painting, Craft and Garden」「Through the Practical Work, Comprehension of Painting, Craft and Garden」(講義1単位、演習1単位)の授業を開講し、この期間の学籍を受講生に与え、レポート課題等を評価した上で単位を授与し修了証書を交付した。

第10回交流シンポジウム「能登地域で活躍する研究者たち」は、2007年度以来毎年、様々なテーマを定めて開催している、教員等の研究交流を主眼とする公開シンポジウムである。両大学では地域との関わりを通じて、多彩な研究・教育・社会貢献の諸活動を積極的に展開している。今回は、能登地域で活躍する研究者たちによる報告を通じて、この地域の特色や将来に対する理解を深めるとともに、専門分野の垣根を越えた意見交換を行って、地域に根ざした大学の活動の可能性を探った。

### 第10回 交流シンポジウム 能登地域で活躍する研究者たち

【開催日】

2017年2月9日

【所管】

教育研究センター

【担当教員】

土井 宏二 教授 美術科彫刻専攻  
真鍋 淳朗 教授 美術科油画専攻  
大森 啓 教授 美術科油画専攻  
坂本 英之 教授 デザイン科環境デザイン専攻

【プログラム】

報告1 奥能登国際芸術祭 2017 &  
アートプロジェクトの理論と実践  
金沢美術工芸大学 油画専攻教授 真鍋 淳朗

報告2 志賀町・絵画塾  
—美術教育による地域連携—  
金沢美術工芸大学 油画専攻教授 大森 啓

報告3 歴史的資源を活かした能登地域のま  
ちづくり  
金沢美術工芸大学 環境デザイン専攻教授  
坂本 英之

報告4 産業連関分析を活用した地域産業振  
興政策の可能性  
—七尾市産業・地域活性化懇話会の事例を通じて—  
金沢大学 人間社会学域教授・地域政策研究  
センター長 佐無田 光

報告5 自動運転技術による地域貢献  
金沢大学 新学術創成研究機構准教授  
菅沼 直樹



第10回交流シンポジウム 研究報告 真鍋教授



第10回交流シンポジウム 研究報告 菅沼准教授

# E01

学生の若者定着の促進等を目的とする金沢市との連携協定を具体化するため、将来の就職を見据えた意見交換を行う場として、地元企業との就職情報交換会を開催した。

就職活動報告会では、デザイン科、美術科、工芸科の全専攻就職内定者から、就職活動に必要なノウハウを各自の経験から発表してもらった。

また、交換会を契機に、関心の高い企業の理解を一層深める場として、参加企業に、1DAYインターンシップを実施していただいた。

## 地元企業との就職情報交換会



第1回 就職情報交換会



第1回 就職情報交換会



第1回 就職情報交換会

【連携先】

金沢市

【期間】

2016年7月30日  
ANA クラウンプラザホテル  
2017年2月4日  
金沢東急ホテル

【担当教員】

キャリア支援室長

寺井 剛敏 教授 デザイン科視覚デザイン専攻

キャリア支援室担当

荒木 恵信 准教授 美術科日本画専攻

高橋 治希 准教授 美術科油画専攻

芝山 昌也 准教授 美術科彫刻専攻

山崎 剛 教授 美術科芸術学専攻

鈴木 康雄 教授 デザイン科視覚デザイン専攻

根来 貴成 准教授 デザイン科製品デザイン専攻

北村 賢哉 准教授 デザイン科環境デザイン専攻

山本 健史 教授 工芸科

村山 祐子 准教授 大学院デザイン科  
ファッションデザインコース

【7月30日参加企業】

株式会社 アイ・オー・データ機器

株式会社 エーミライトデザイン

特定非営利活動法人 金沢アートグミ

株式会社 カネヒサコーポレーション

株式会社 カラフルカンパニー

株式会社 五井建築研究所

伸晃化学株式会社

高桑美術印刷株式会社

株式会社 大和

津田駒工業株式会社

株式会社 DMM.com ラボ

ナカダ株式会社

ニッコー株式会社

株式会社 箔一

株式会社 橋本清文堂印刷

北陸ミサワホーム株式会社

三谷産業株式会社

株式会社 ヤギコーポレーション

国立大学法人 北陸先端科学技術大学院大学

【インターンシップのみ参加】

小松精練株式会社

株式会社 フィックス

ヨシダ宣伝株式会社

【2月4日参加企業】

株式会社 アイ・オー・データ機器

AMD 株式会社

特定非営利活動法人 金沢アートグミ

株式会社 カネヒサコーポレーション

伸晃化学株式会社

高桑美術印刷株式会社

津田駒工業株式会社

株式会社 DMM.com ラボ

ナカダ株式会社

株式会社 箔一

株式会社 橋本清文堂印刷

北陸ミサワホーム株式会社

三谷産業株式会社

ヨシダ宣伝株式会社

国立大学法人 北陸先端科学技術大学院大学



第2回 就職情報交換会



第2回 就職情報交換会



# F01

## 奥能登国際芸術祭準備事業

教員と学生、地域の人々が協力して、自然と風土、アートが一体となった21世紀におけるアジア的な「社会の中のアート」を摸索するとともに、環日本海の国々との古くて新しいネットワーク再構築をアートの側面から探求した。本学が珠洲市上黒丸で培った交流実績を踏まえ、同市の古民家調査研究成果を全学的プロジェクトとして展開した。世界無形文化遺産「あえのこと」や稲作の体験、生活の風土などを起点に学術調査も行い、環日本海を意識した作品表現を各教員監督のもとにまとめた。この活動は、「アートが社会の諸課題とどう向き合うか?」「美術館外でアートがどう機能するか?」「学生が実社会においてアートとどう関わるか?」という問いに対し、

- ① 天然素材と伝統技術を用い、自然と風土が一体の古民家で、サイトスペシフィックな作品制作を行うこと
- ② 奥能登国際芸術祭との連携を通じ、新たな付加価値を生み出すリレーショナルアート活動を行うこと
- ③ アート・アドミニストレーションの管理・運営を実践的に行うことを通じて、その教育的手法の実践的な研究となること

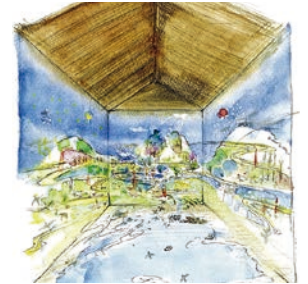
以上の研究活動を通じて、地域創造と連携した研究及び教育方法の課題を浮き彫りにし、今後の本学の教育研究の一つの姿勢を社会に提案した。



奥能登国際芸術祭(2017年9月~)に参加するための古民家調査研究と展示スペース準備



奥能登国際芸術祭で交流拠点となる珠洲市飯田町の古民家



「奥能登曼荼羅」 蔵の壁面に奥能登の森羅万象と環日本海・東アジアを俯瞰する曼荼羅図を描写

【助成・支援者】

三谷研究開発支援財団  
大学コンソーシアム石川  
地域課題研究セミナー支援事業  
珠洲市  
珠洲アートプロジェクト実行委員会  
珠洲市まちづくり相談室

【期間】

2016年4月—2017年3月31日

【研究体制】

プロジェクト型

【担当教員】

|           |                   |
|-----------|-------------------|
| 真鍋 淳明 教授  | 美術科油画専攻           |
| 高橋 治希 准教授 | 美術科油画専攻           |
| 岩崎 純 准教授  | 美術科油画専攻           |
| 中瀬 康志 教授  | 美術科彫刻専攻           |
| 芝山 昌也 准教授 | 美術科彫刻専攻           |
| 安島 諭 教授   | デザイン科<br>製品デザイン専攻 |
| 坂本 英之 教授  | デザイン科<br>環境デザイン専攻 |
| 池田 晶一 准教授 | 工芸科               |
| 稲垣 健志 講師  | 一般教育等             |

【参加学生】

|        |                         |
|--------|-------------------------|
| 石田 香   | 大学院修士課程絵画専攻<br>日本画コース1年 |
| 伊木 さなえ | 油画専攻1年                  |
| 伊藤 真理奈 | 油画専攻1年                  |
| 中村 清夏  | 油画専攻1年                  |
| 山本 いちご | 油画専攻1年                  |
| 沖田 愛有美 | 油画専攻3年                  |
| 筒井 愛子  | 油画専攻2年                  |
| 中桐 聡美  | 油画専攻3年                  |
| 山岸 耕輔  | 油画専攻3年                  |
| 中島 大河  | 油画専攻4年                  |
| 内田 望美  | 大学院修士課程絵画専攻<br>油画コース1年  |
| 林 穂南   | 彫刻専攻1年                  |
| 水野 由羅  | 彫刻専攻1年                  |
| 津村 晃希  | 彫刻専攻2年                  |
| 松村 れん  | 彫刻専攻3年                  |
| 尾崎 太亮  | 大学院修士課程彫刻専攻1年           |
| 杉山 知里  | 芸術学専攻3年                 |
| 宇都宮 未来 | 工芸科1年                   |
| 山崎 愛美  | 工芸科2年                   |
| 百歩 陽子  | 工芸科3年                   |
| 蔡 承健   | 大学院修士課程工芸専攻1年           |
| 白木 裕也  | 大学院修士課程デザイン専攻1年         |
| 成子 夏芽  | 大学院修士課程デザイン専攻1年         |



「いえの木」 蔵の中に残された物を樹木状に組み、時間の蓄積、豊かさ、厳しさを表現



「こめのにわ」 「あえのこと」の文化的背景を学び、実際に稲作を行い、ワークショップとして発表

# G01

## 志賀町・絵画塾 —美術教育による地域連携—

「絵画塾」は金沢美術工芸大学の教員・学生が志賀高校を会場として中・高校生に絵画指導を行うもので、志賀高校の活性化と地域へのアピールを目的として企画された。平成26年に始まったこの中高大の連携事業は、今年度新たに締結された「志賀町との連携に関する協定」の一環として位置付けられている。

今年度は6月から11月まで月1回(土曜日)、計6回実施し、参加者は22名(中学生が20名、高校生が2名)であった。参加者の強い意欲に応えるため本学ならではの専門性を織り込みながらも、あくまでも分かりやすい課題設定を心掛けた。指導には各回2名の美大生が当たり、その親しみのある丁寧な対応は毎回好評であった。また学生自身も、美術や教育について改めて感じる事が多かったようだ。

志賀高校への進学者増という直接的成果も期待されるが、より重要なのは志賀高校が様々な機関との連携により、地域に於ける教育・文化活動の拠点として根差すことである。また、本学としても今後より多くの市民や子供達に、より質の高い美的体験を提供することが求められている。次年度以降この「絵画塾」をより充実させていくとともに、これを一つのモデルケースとして展開していくことが重要である。



授業風景



授業風景

【委託者】

志賀町教育委員会

【期間】

2016年6月11日—11月12日

【研究体制】

プロジェクト型

【担当教員】

大森 啓 教授 美術科油画専攻  
佐藤 俊介 教授 美術科日本画専攻

【参加学生】

張 陽太 大学院修士課程絵画専攻 油画コース1年  
山本 武明 大学院修士課程絵画専攻 油画コース1年  
金尾 奈瑠美 大学院修士課程絵画専攻 油画コース1年  
畑 美紗子 大学院修士課程絵画専攻 油画コース1年  
内田 望美 大学院修士課程絵画専攻 油画コース1年  
後藤 美袖 大学院修士課程絵画専攻 油画コース1年  
阿知波 まどか 美術科油画専攻2年  
門田 茉莉耶 美術科油画専攻2年  
北川 由希恵 大学院修士課程日本画専攻 実習助手  
本田 貴哉 美術科日本画専攻4年  
向井 菜摘 大学院修士課程絵画専攻 日本画コース2年

【開発日程】

2016年

- 6月11日 第1回 「鉛筆デッサン」  
形の捉え方の基本
- 7月23日 第2回 「水彩写生」  
形・明暗・色を分けて捉える
- 8月17日 第3回 「木炭デッサン」  
+ 美大見学  
石膏像・形のポイントを押しさえる
- 9月24日 第4回 「水彩イメージ画」  
偶然できた色の美しさを利用する
- 10月22日 第5回 「細密写生」  
鉛筆と水彩による徹底した観察
- 11月12日 第6回 「写生から墨彩表現へ」  
観察をもとにした表現



授業風景



授業風景